

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	人間の尊厳と自立 C11001	1 年前期	講義	2	
担当教員	矢澤 敦子				
授業の概要	人間を多面的に理解することを基礎とし、尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎を学習します。また、尊厳の保持と自立支援が、人の幸せに深く関わっていることを学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳とは何かを理解できる。 ・尊厳を保持し、自立（自律）した生活を支えることの必要性を理解することができる。 ・自立（自律）について理解し、自立支援とは何かを自分の言葉で表現することができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○	○	○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の尊厳という理念 本科目を学ぶ意義、目的 2. 人権思想の潮流 人権思想の歴史とその具現化 3. 人権や尊厳に関する日本の諸規定 日本国憲法、社会福祉法 4. 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷① 人は人をどう援助しようとしてきたか 5. 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷② 戦争が社会福祉に及ぼした影響 6. 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷③ 戦後の人権、福祉理念の変化 7. QOL という考え方 ADL から QOL へ 8. 人権尊重と権利擁護 権利擁護の視点 9. 自立の概念① 自立とは 10. 自立の概念② 自立と自律 11. 介護を必要とする人の自立と自立支援① 自立支援に必要な視点 12. 介護を必要とする人の自立と自立支援② ICIDH と ICF 13. 尊厳を守る介護① 尊厳の保持と自立、自立支援の関係性 14. 尊厳を守る介護② 尊厳を損なう介護、守る介護 15. 利用者の自立支援を考える 自分の考える「自立支援」とは 				
事前・事後学習について	授業中にその都度課題を出します。指定した期日までに提出してください。 また、毎回その日の授業内容に沿ったワークシートを配布します。ワークシートをもとに復習をしましょう。 授業終了時に「チャレンジ 100」を配布します。				
準備学習に必要な時間	指示があった時は事前学習（30分程度） 毎回配布される「チャレンジ 100」を次の授業までに行う。（20分程度）				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	80	人間の尊厳と自立についての理解		
	実践	0			
	レポート	20	授業中の課題・「調べ学習」		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	介護福祉士資格取得の基本となる授業です。授業中に出てくるキーワードや重要事項は、授業終了時に配布される「チャレンジ 100」に対応しています。次の授業で答え合わせをしますので、必ず復習と共に行いましょう。国試対策にも直結するように、過去問等を踏まえています。指示に従って綴っておきましょう。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第 2 版」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	人間関係とコミュニケーション C11002	1 年前期	講義	2	
担当教員	矢澤 敦子				
授業の概要	授業を通じてコミュニケーションの基本を体験し、自己理解を深めます。自分のコミュニケーションの特性や他者から見た自分を理解し、人間関係を広げるためのコミュニケーションについて、演習を行いながら理解します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分のコミュニケーション傾向を知ることができる。 他者を理解するために必要な態度を理解することができる。 人間関係の形成のためのコミュニケーション能力を習得することができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○	○	○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 対人関係におけるコミュニケーション コミュニケーションの基本構造を学ぶ コミュニケーションの手段 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて学ぶ 人間と人間関係 人間関係の形成とコミュニケーションについて学ぶ 自分を知る① 自分のコミュニケーションの傾向を知る 自分を知る② 演習を通して自分の感情を意識する 人間関係形成のために必要なこと 他者に自分を適切に自己開示することを考える 他者を理解するために 価値観の違いを体験する 人間の発達段階からみた人間関係 人間の段階的な発達に応じたコミュニケーションを学ぶ 社会心理学から見た人間関係 対人認知と集団でのかかわりについて学ぶ 人間関係とストレス ストレスについて知り、ストレス対処行動を考える 対人援助関係とコミュニケーション 相手を尊重しながら、自分の意見を伝える体験をする 対人援助における基本的態度 受容、共感、傾聴について学ぶ 援助的人間関係の形成とバイステックの 7 原則 援助者として必要な態度をバイステックの 7 原則を通して理解する 組織の条件としてのコミュニケーションの特徴 組織とは何かを知り、組織における情報の流れ学ぶ 組織において求められるコミュニケーション 組織においての情報の流れの重要性を学ぶ 				
事前・事後学習について	毎回その日の授業内容に沿ったワークシートを配布します。ワークシートをもとに復習をしましょう。授業終了時に「チャレンジ 100」を配布します。答え合わせ、解説も行いますので、毎回見直しましょう。				
準備学習に必要な時間	指示があった時は事前学習をしましょう。(20分程度) 授業で配布するワークシートを復習し、「チャレンジ 100」を行い提出してください。(30分程度)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	90	自己および他者理解と、人間関係の形成のために必要なコミュニケーション能力について		
	実践	10	演習への取り組み		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	演習を交えて授業をします。演習への取り組みも評価します。国家試験に直結する部分もありますので、「チャレンジ 100」の解説までしっかり聞き、間違えたところは復習しましょう。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第 2 版」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第 2 版」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	チームマネジメント C14003	2年後期	講義	2	
担当教員	矢澤 敦子				
授業の概要	介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を学びます。また、演習を交えながら、チームで働くために必要な能力を理解します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践におけるチームマネジメントの意義を理解することができる。 ・介護サービスを支える組織について理解することができる。 ・チームの一員として、自分が働く姿をイメージすることができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5
	○	○	○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実践におけるチームマネジメント① ヒューマンサービスである介護サービスと他のサービスとの違いについて学ぶ 2. 介護実践におけるチームマネジメント② なぜ介護現場でチームマネジメントが求められるのか、その理由について考える 3. 介護実践におけるチームマネジメント③ チームマネジメントの取り組みについて学ぶ 4. 介護実践におけるチームマネジメント④ 演習を通して、介護サービスの特性とチームのあり方について考える 5. ケアを展開するためのチームマネジメント① ケアを展開するために必要なチームについて学ぶ 6. ケアを展開するためのチームマネジメント② チームにおける情報共有について学ぶ 7. ケアを展開するためのチームマネジメント③ 演習を通して、情報共有のあり方について具体的にイメージする 8. ケアを展開するためのチームマネジメント④ チームの力を発揮するためのチームマネジメントについて学ぶ 9. ケアを展開するためのチームマネジメント⑤ 演習を通して、リーダーシップとフォロワーシップのバランスについて考える 10. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント① キャリアに応じた実践力について学ぶ 11. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント② 介護福祉職としてのキャリアデザインについて学ぶ 12. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③ 介護福祉職のキャリア支援・開発について学ぶ 13. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント④ 演習を通して、働き始めた自分の姿をイメージし介護観を深める 14. 組織の目標達成のためのチームマネジメント① 介護サービスを支える組織について学ぶ 15. 組織の目標達成のためのチームマネジメント② 法令遵守（コンプライアンス）について学ぶと同時に、介護現場で求められる人材について考える 				
事前・事後学習について	毎回その日の授業内容に沿ったワークシートを配布します。ワークシートをもとに復習をしましょう。授業終了時に「チャレンジ100」を配布します。				
準備学習に必要な時間	指定した当該ページに目を通してください。(30分程度) 授業で配布するワークシートを復習し、「チャレンジ100」を行い提出してください。(30分程度)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	80	ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴と、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎について		
	実践	20	演習への取り組み		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	講義だけでなく演習を交えて授業をします。演習への取り組みも評価します。 「チャレンジ100」は、毎回答え合わせ、解説をします。間違えたところは復習をしましょう。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解 第2版」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	社会の理解 I C13004	2 年前期	講義	2	
担当教員	熊谷 教				
授業の概要	介護保険制度の基本的なしくみや運用、サービスの種類について理解できるようにします。また、介護保険制度創設の背景と目的、制度の体系や動向についても学びます。日常的な生活に密接に関わるこの制度が、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、自立生活を支援するために必要な社会的制度であることを理解します。さらに、社会保障制度についての基本的な考え方、歴史と変遷についても理解します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の基本的な仕組み、サービスの種類が理解できる。 ・介護保険制度の関連機関の役割を理解することができる。 ・社会保障の基本的な考え方としくみ、発達が理解できる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○	○	○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険の基本① 制度の対象・用語の理解・保険者と被保険者の資格要件と保険料徴収 2. 介護保険の基本② 保険給付の対象者と種類・利用者負担 3. 介護保険制度のサービスの利用までの流れ 4. 介護保険制度のサービス種類・内容の理解① 居宅サービスの理解 5. 介護保険制度のサービス種類・内容の理解② 地域密着型サービスの理解 6. 介護保険制度のサービス種類・内容の理解③ 施設サービスの理解 7. 地域支援事業、地域包括ケアシステムの実現に向けて 8. 介護保険制度における国、都道府県、市町村、団体の役割 9. 介護保険制度の改正の方向性 10. 介護保険制度創設の背景と目的 11. 介護保険制度のまとめ 12. 社会保障制度の基本的な考え方 役割と意義・機能・目的 13. 社会保障制度の発達 戦後から昭和 30 年代 14. 社会保障制度の発達 昭和 40 年代から現代まで 15. 日本の社会保障制度のしくみ 保険と扶助、給付や負担の方法 				
事前・事後学習について	介護福祉を学ぶ中では介護保険制度のしくみや内容がわからないと理解できないことが多くあります。また、介護保険制度も含めて社会保障制度は社会でも注目されている問題ですので関心を持つことも事前学習になります。事後学習としては、国家試験に直結する科目になります。制度の内容をわかりやすくノートをまとめてください。				
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30 分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 200〉をやっておくこと(30 分程度)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	100	介護保険制度の基本的な仕組み・介護サービスの種類の理解、社会保障制度の基本と発達の理解		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	新聞・ニュースに度々取り上げられるので、見ておくこと。 チャレンジは知識の積み重ねになります。理解できるようにきちんとやっておきましょう。チャレンジ 200 を採点して返却します。 授業は理解できたことの積み重ねになっていきます。わからないことは、早めに解決しておきましょう。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本 II」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	社会の理解Ⅱ C14005	2年後期	講義	2	
担当教員	熊谷 教				
授業の概要	社会保障の具体的な体系としくみや、介護実践に関連する諸制度の基礎的知識について理解をします。社会生活での基本的な営みに必要な制度を知り、福祉制度の基本を理解できるようにします。また、家族、地域の単位で人間を捉える視点を養い地域共生社会の実現について理解します。また、介護福祉士として適切な支援を行うために制度を活用できる能力を養います。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障の基本的な考え方を理解できる。 ・ 介護実践に必要な諸制度の基本的な仕組みを理解できる。 ・ 人間の生活と地域・社会との関わりが理解できる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度の仕組み 年金保険 2. 社会保障制度の仕組み 雇用・労災保険 3. 社会保障制度の仕組み 医療保険 4. 各種社会扶助の概要 5. 現代社会と社会保障制度 現代社会の人口動態と社会保障費などについて 6. 個人の権利を守る制度・施策 虐待防止や消費者保護やその他の制度 7. 個人の権利を守る制度・施策 成年後見制度など 8. 個人の権利を守る制度・施策 日常生活自立支援事業 9. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 生活保護制度について 10. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 生活困窮者自立支援法・他について 11. 保健医療に関する制度・施策 健康や公衆衛生についての施策について 12. 地域生活を支援する制度・施策 就労支援・その他の制度 13. 社会と生活の仕組み 家族の機能と役割・地域・地域社会における生活支援 14. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 地域福祉の理解と歴史 15. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 地域共生社会と地域包括ケアについて 				
事前・事後学習について	社会保障制度の具体的な年金や医療保険等、学ぶ上では大切な基盤になりますので、新聞・ニュースなどに関心を持っていると理解がスムーズです。私達の生活や地域社会がどのように構成されているか、ニュースなどに関心を持ってもらうと理解しやすいです。事前学習としてそうした新聞などやテキストには目を通して来て下さい。事後学習としては授業で配布するワークシートの復習をしてください。				
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30分以上) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 200〉を授業内でやり切れなかった場合やっておくこと(15分以上)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	100	家族・地域の機能・社会保障制度、介護実践に関する制度の理解		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	新聞・ニュースに度々取り上げられるので、見ておくこと。 毎回のチャレンジは知識の積み重ねになります。理解できるようにきちんとやっておきましょう。 授業は理解できたことの積み重ねになっていきます。早めに理解できないことは解決しましょう。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 12		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	臨床栄養実習	C12006	後期	実習	1					
担当教員	新海 シズ									
授業の概要	福祉施設入所者や在宅ケアにおいて、高齢者が安全でおいしく食事をするための理論を学び、適切な食品を選択し食事をつくるための手法を学ぶ。また、実習を通して高齢期における疾病・症状（糖尿病・高血圧症・嚥下困難）に対応した食事づくりの基礎を習得する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者がより高いQOLを目指し、安全でおいしく食べられる食事を理解する。 ・疾病・症状（糖尿病・高血圧症・嚥下困難）に対応した食事を理解し、調理することができる。 									
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5					
	○		○	○						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の食事介護について 高齢者の精神・身体機能の特徴を理解し、食事改善の重要性を理解する 2. 味付けご飯の炊き方と調味割合、だし汁のとり方、ほうれん草のゆで方を理解する かやくご飯、豆腐の味噌汁、ほうれん草のごま和え 3. 麺類の種類と扱い方を理解する 魚の味噌煮、白あえの作り方を習得する 五目うどん、サバの味噌煮、白あえ 4. 軟菜食に向く食品と調理法を理解する 全がゆ、空也蒸し、かぼちゃのそぼろあんかけ 5. すし飯の作り方を習得する サバ寿司、けんちん汁、抹茶ミルクゼリー 6. 天ぷらの作り方を習得する 天ぷら、じゃがいもとわかめの味噌汁、おろし和え 7. 煮物の作り方を理解する 雑炊、魚の照り焼き、炊き合わせ、きゅうりとわかめの酢の物 8. 高齢者に好まれる西洋料理を理解する グラタン、サーモンのマリネ 他 9. 高血圧症の食事を理解する 塩分6g以下の食事 10. 糖尿病の人の食事を理解する 1,600kcalの食事 11. 中等度口腔障害食を学ぶ 全粥、味噌汁とろみ付き、まぐろ月見風、かぼちゃマッシュ 他 12. 高齢者向きのおやつ さつまいもの茶巾しぼり、クレープ、豆腐白玉のこしあんかけ、煎茶 13. 高齢者ソフト食 変りのり巻き、かぼちゃのがんも、りんごのコンポート 14. 咀嚼・嚥下障害がある人の食事を学ぶ 小田巻き蒸し、ほたてと鮭の寒天寄せ、スイートポテト 15. 行事食（雛祭り） ひな祭り寿司、蛤の潮汁、菜の花のおひたし、いちご 									
事前・事後学習について	事前学習：事前に配布する資料を、手順を考え実習計画表に書いて実習2日前までに提出する（グループで1部）。 事後学習：実習した料理は、毎日の食生活の中で実践することで習得して下さい。									
準備学習に必要な時間	前の週に配布したレシピをみて、作業手順を考え計画表に記載してください。（30分程度）									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	30	実習における意欲・態度・技能・思考力・判断力・協調性							
	レポート	35	知識・理解							
	その他	35	各回の提出物による知識・理解							
受講上の注意・課題のフィードバック	提出された実習計画表は、確認して返却します。 味の評価表には目を通し、反省箇所など、次回の初めにコメントします。									
使用テキスト	毎回、資料を配布します。									
参考書	「嚥下障害食のつくりかた」藤谷順子、金谷節子、林静子(著) 日本医療企画									

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護予防論 C14007	1年後期	講義	2	
担当教員	村山 真紀子・矢澤 敦子・小川 晃美				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防とは何か、一次予防・二次予防の視点・重度化予防の視点の理解を深めます。運動機能向上のため、マシンを使い具体的な実践を体験します。 ・高齢者や障害者が、集団で行なうアクティビティ・サービスについて考え、その計画や実践の体験を通して学びます。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防について基礎的な知識を理解することができる。 ・介護予防における筋力トレーニングの必要性を理解することができる。 ・集団でのアクティビティ・サービスの計画と実践・評価を行うことができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自立支援と介護予防① 介護予防とは何か、介護予防の目的と必要性を学ぶ 2. 自立支援と介護予防② 介護予防の種類とその展開について学ぶ 3. 自立支援と介護予防③ 高齢者の身体的特徴と介護予防のプログラムについて学ぶ 4. 介護予防プログラムの実際① 栄養状態の改善 5. 介護予防プログラムの実際② 口腔機能を高める 6. 介護予防プログラムの実際③ 認知機能の低下、うつ、閉じこもりの予防 7. 介護予防プログラムの実際④ 尿失禁の改善 8. 介護予防プログラムの実際⑤ 体力測定、ストレッチングの方法 9. 介護予防プログラムの実際⑥ 高齢者に向けたマシーントレーニング 10. 介護予防プログラムの実際⑦ 軽運動とコグニサイズ 11. アクティビティ・サービスの考え方 アクティビティ・サービスとレクリエーションの違い 12. アクティビティ・サービス計画の立案 集団アクティビティ・サービス計画の立案 13. アクティビティ・サービス計画の見直し グループワーク、リハーサル 14. アクティビティ・サービス計画の実施 計画した集団アクティビティ・サービスの実施 15. アクティビティ・サービス計画の実施・評価 実施した集団アクティビティ・サービスの振り返り・評価 				
事前・事後学習について	テキストの指定がある場合は事前に目を通す。 また、授業毎にワークシートとチャレンジ 100 を配布するので、事後学習としてまとめておく。				
準備学習に必要な時間	授業で取り上げた内容について配布するワークシートとチャレンジを中心に復習する（30分程度）。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	75	介護予防に関する基本的な知識、高齢者の特徴と転倒の原因など		
	実践	25	集団アクティビティ・サービスの計画と実践、評価		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	授業ではトレーニングマシンを使ったり、体操・ストレッチなどを行うため、運動のできる服装・かかとのある靴で参加して下さい。 後半はグループに分かれ、高齢者や障害者を対象とした集団アクティビティ・サービスを計画、実施します。				
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I」 中央法規出版				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1			開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無		
科目名	アクティビティ演習 C11008			1 年前期	演習	1			
担当教員	稲垣 みき								
授業の概要	介護を必要とする人の多様なニーズに応えられるように、幅広い分野から学び基礎知識をつけます。また、習得した知識を介護実践に結び付けることができるように体験を通し学んでいきます。そして、利用者の生活に楽しみや生きがいを持てるようアクティビティについて理解を深めていきます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする人の多様性を考え、引き出しつくりの意味を理解することができる。 ・犬との関わりを通し、自分以外の人や動物の思いを考えられるようになる。 ・季節行事について理解し、実践をすることができる。 								
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5				
	○		○	○	○				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アクティビティ・サービスとは何か アクティビティ・サービスとは何かを考える。 2. 動物との暮らし① 犬について学ぶ 3. 動物との暮らし② 犬のしつけ part I 4. 動物との暮らし③ 犬のしつけ part II 5. 動物との暮らし④ 犬と一緒に散歩をしてみよう part I 6. 動物との暮らし⑤ 犬と一緒に散歩をしてみよう part II 7. 動物との暮らし⑥ 犬のケアについて 8. 動物との暮らし⑦ 役割を持って活躍する犬たち part I 9. 動物との暮らし⑧ 役割を持って活躍する犬たち part II 10. アクティビティ・サービスの計画とは何か アクティビティ・サービスの基本的な考え方について理解する。 11. 日常生活場面でのアクティビティ・サービス① 季節感のある年中行事を体験してみる。 12. 日常生活場面でのアクティビティ・サービス② 趣味活動のアクティビティ part I 13. 日常生活場面でのアクティビティ・サービス③ 趣味活動のアクティビティ part II 14. 日常生活場面でのアクティビティ・サービス④ 趣味活動のアクティビティ part III 15. 日常生活場面でのアクティビティ・サービス⑤ 身体活動のアクティビティ 								
事前・事後学習について	利用者さんが生きてきた時代を考えながらアクティビティを学びます。事前に季節行事などを予習してきて下さい。授業では、演習が中心となります。初めての事であっても、積極的に参加しましょう。また、授業毎に配布されるワークシートは事後学習としてまとめておいて下さい。								
準備学習に必要な時間	授業以外の時間を使って、指定された調べ学習をしてきて下さい。(30 分以上)								
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	0							
	レポート	80	『アクティビティ演習を通しての学び』(80)						
	その他	20	指定課題の完成度(15)、授業態度(物品の準備、片付けに対する姿勢)(5)						
受講上の注意・課題のフィードバック	授業ごとに準備が必要となります。その都度指示があるので、必要な物を準備してください。また、授業では利用者体験も行います。授業の中で感じた思いなどをワークシートに書き留め、振り返りに活用してください。課題となっているレポートは添削して返却します。								
使用テキスト	授業内で配布されるワークシート								
参考書	特に指定しない。								

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護の基本A C21009	1 年前期	講義	2	
担当教員	小川 晃美				
授業の概要	高齢者は、どのような時代を生きて今があるのでしょうか。どんな出来事や、どんな流行があり、どんな音楽に触れてきたのでしょうか。本科目では高齢者が生きてきた道、歴史を知り、自分の生活と比較しながら、高齢者と接する際の自分の「引き出し」を増やしていきます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が生き抜いてきた時代背景を調べ、今の自分の暮らしと比較しながらどんな時代だったのかを考えることができる。 ・高齢者が慣れ親しんできた歌やその時代背景を調べ、まとめることができる。 ・調べてわかったことをどのように活かしたらいいか考えることができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活を理解するとは① 生活とは何か、生活の特性を理解する 2. 生活を理解するとは② 高齢者を理解するために必要な知識とは何か 3. 高齢者が生き抜いてきた時代背景① 戦前～戦中の暮らしを知る 4. 高齢者が生き抜いてきた時代背景② 戦後の暮らしを知る 5. 高齢者が生き抜いてきた時代背景③ 地域の出来事を知る 6. 高齢者が生き抜いてきた時代背景④ 地域で出来事を知る 7. 高齢者が生き抜いてきた時代背景⑤ まとめ 8. 童謡・唱歌・流行歌を知る① 担当決め、高齢者の馴染みの歌を調べる 9. 童謡・唱歌・流行歌を知る② 調べたことを各自でまとめる 10. 童謡・唱歌・流行歌を知る③ 調べた歌をうたう 11. 童謡・唱歌・流行歌を知る④ 他の人の調べた歌を聞いて覚える 13. 童謡・唱歌・流行歌を知る⑤ 自分の歌集としてまとめる 14. 童謡・唱歌・流行歌を知る⑥ 自分の歌集を仕上げる 15. まとめ 自分に出来た新たな「引き出し」の活用 				
事前・事後学習について	授業の中で課題を出します。与えられた課題について、他の人にもわかるようにまとめましょう。また、日頃から身近にいる高齢者から昔の話を聞いたり、どんな歌を歌ったり聞いたりしていたか、興味をもってみましょう。				
準備学習に必要な時間	授業以外の時間を使って、指示された調べ学習をしてきましょう。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	0			
	レポート	40	出来事調べ		
	その他	60	歌調べ、歌集の作成		
受講上の注意・課題のフィードバック	本科目を通して学んだことは、介護実習等で出会う利用者さんとのコミュニケーションに活かしましょう。また調べ学習でまとめたものは、授業が終わった後も、自分の教材として活用しましょう。				
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」 中央法規出版				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	介護の基本B	C21010	1年前期	講義	2					
担当教員	田部 一順									
授業の概要	災害時においても、そこには人々の生活があり、生活支援を必要としている人がいます。介護福祉士は災害時においても、その専門性を発揮して、少しでも安心して暮らせるように支援しなければなりません。しかし、その際は、非日常としての生活を捉えることや、人々の心理状態を把握した上で活動しなければなりません。日頃から心がけて準備や訓練をしておくことが必要です。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に備えて、日頃から何をしておくべきか理解できる。 ・リスクマネージメントの基本を理解できる。 ・災害時に介護福祉士が果たす役割と具体的活動は何かを考えることができる。 									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○		○	○						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における災害を知る① これまで日本でどんな災害が起き、その時何が起こっていたのかを知る。 2. 日本における災害を知る② 大きな災害に遭って、人々はどんなことを教訓として語っているのか。 3. 日災害に備える①—災害備蓄の基礎知識 4. 災害に備える②—避難所における生活支援 5. 災害に備える③—学校に来ている時に災害が起きたら 6. 災害時の介護①—災害時の食事 7. 災害時の介護②—災害時の高齢者の食事を考える。 8. 災害時の介護③—避難所雄設営をしてみよう。 9. 災害時の介護④—防災訓練と炊き出し訓練、非常食を食べてみよう。 10. 災害時の介護⑤—災害時における食事を考えることができる。 11. 36 水害について学ぶ。 12. 被災地で活動する際の心構え—介護福祉士の避難所での実践を聞く 13. 災害時介護福祉士として何ができるのかを考える。 14. リスクマネージメント① 15. リスクマネージメント② 									
事前・事後学習について	<p>入学前課題で調べてもらった「日本の災害」について、災害毎に発表してもらいます。その災害で得られた教訓は、今、私たちの生活に活かされているのか検証しましょう。</p> <p>授業の中で学んだことは、ご家族の皆さんとも共有していただき、それぞれの家庭での防災意識を高めることも皆さんの役割です。家庭での防災備蓄を確認してもらいますので、ご家族皆さんで確認してもらえるとよいと思います。また、防災備蓄は定期的なチェックが必要ですので、皆さんが主となって実践してください。</p>									
準備学習に必要な時間	災害調べ、防災備蓄品のリストアップ、防災に関するレポートなどの課題が出ますので、その都度計画的に取り組んでください。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	50	防災備蓄品リスト作成及び実物の準備							
	レポート	50	災害時に介護福祉士としてどう働くのか							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	<p>防災意識を高めておくことは、社会人として身につけておかなければならない知識ともいえます。介護福祉士として働く際には、さらに利用者の命を守らなければなりません。まずは自分の命を守る方法を知っていること、そして利用者の安全確保につなげられる力をつけていきます。レポートには、防災に関して学んだことから自分がどのような実践をしようとするのか、そして災害時に介護福祉士はどんな役割を持つのかを検討して書いてください。</p>									
使用テキスト	<p>最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 中央法規出版</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 中央法規出版</p>									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護の基本C C22011	1年後期	講義	2	
担当教員	稲垣 みき				
授業の概要	福祉とは何か、介護福祉とは何か、介護福祉士とはどんな仕事かを学びます。わが国の介護福祉の歴史を概観することで、制度の変遷から介護福祉士誕生の歴史を理解します。また、専門職としての役割と機能、そして職業倫理を学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士誕生の歴史を理解できる。 ・介護福祉士を取り巻く状況や背景が理解できる。 ・社会福祉士および介護福祉士法を理解できる。 ・介護福祉士の職業倫理が理解できる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5
	○	○	○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護とは－「介護」という言葉のはじまり 介護はいつから使われた？ 2. 戦後の福祉 第二次世界大戦後の日本の福祉を知る。 3. 介護の概念の変遷① 時代とともに「介護」はどう捉えられてきたのか考える。 4. 介護の概念の変遷② 時代とともに「介護」はどう捉えられてきたのか考える。 5. 介護問題の背景 介護問題が深刻になったのは何故か知る。 6. 介護福祉士誕生の歴史 介護福祉士はこうして誕生した。 7. 介護保険創設の背景① 介護保険創設の背景を理解する。 8. 介護保険創設の背景② 介護保険の内容を理解する。 9. 社会福祉士及び介護福祉士法① 目指す資格の根拠法を理解する。 10. 社会福祉士及び介護福祉士法② 法改正により何が変わったのか。 11. 求められる介護福祉士像 私達はどうか求められているのか。 12. 介護福祉士を支える団体 介護福祉士を支える職能団体や生涯研修、学会の活動について理解する。 13. 介護実践における倫理 介護に携わる人が持つべき職業倫理を学ぶ。 14. 日本介護福祉士会倫理綱領の理解① 倫理綱領とは何か。 15. 日本介護福祉士会倫理綱領の理解② 倫理綱領の内容を理解する。 				
事前・事後学習について	介護福祉士資格取得の基本となる授業です。事前学習の指示があった時には、予習も含めて行いましょう。授業の中で出てくるキーワードや重要事項は、授業の最後に配布される『チャレンジ』に対応しています。次の授業で答え合わせをしますので、必ず復習と共に行いましょう。				
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30分以上) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ100〉をやり、POINTは覚える。(30分以上)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	100	介護の変遷、根拠法および職業倫理の理解		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	指定したテキストの当該ページには目を通しましょう。(30分程度) 授業の中で出てくるキーワードや重要事項は、授業の最後に配布される『チャレンジ』に対応しています。次の授業で答え合わせをしますので、必ず復習と共に行いましょう。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本I」 中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護の基本D C22012	1年後期	講義	2	
担当教員	太和田 雅美				
授業の概要	障害福祉サービスを必要とする人の生活を支援する観点から、障害福祉サービスについて理解します。障害者総合支援法の成立の背景やしくみを学びます。多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解します。さらに、地域連携等、フォーマル・インフォーマルなサービスを理解します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者のためのサービスについて理解できる。 ・ 障害者総合支援法のしくみが理解できる。 ・ 多職種連携・協働に求められる基本的な能力、専門職の専門性が理解できる。 ・ 地域連携の意義と目的について理解できる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○	○	○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉を必要とする障害者の暮らし 障害を持つ人の生活について理解する。 2. 障害福祉サービスについて調べる。 障害福祉サービスを調べてまとめる 3-4. 障害福祉サービスの理解 障害福祉サービス調べを発表する。 5. 障害者総合支援法の理解① 障害福祉サービスの利用手続きの流れを知る。 6. 障害者総合支援法の理解② 自立支援給付と地域生活支援事業を理解する 7. 障害者総合支援法の理解③ 相談支援事業と相談支援専門員について理解する。 8. 障害者保健福祉の動向 障害福祉の現状と障害者の法的定義について理解する。 9. 障害者保健福祉の歴史 精神障害者福祉への歩みについて理解する。 10. 多職種連携の必要性 連携・協働の必要性について学ぶ。 11-12. 保健・医療・福祉職の役割と機能 介護福祉職と協働するさまざまな職種について知る。 13. 地域連携① 生活を支えるインフォーマルサービスと地域連携の意義と目的を理解する。 14. 地域連携② 地域連携の担い手を知る。 15. 高齢者のためのフォーマルサービスの概要 介護保険制度におけるサービスの種類 				
事前・事後学習について	実習Ⅰ-1 に向かって、障害福祉サービスを理解します。常日頃から障害福祉サービスについてのニュース等に関心をもってください。授業で配布されるチャレンジは、重要ですので自宅で復習しておいてください。				
準備学習に必要な時間	『チャレンジ 100』は復習ですので、配布された時には必ずやってきて下さい。(20分程度)				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	90	試験		
	実践	0			
	レポート	10	障害福祉サービスについて調べ		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	実習施設の理解に直結する授業ですので、ワークシート等を復習しておいてください。障害分野の国家試験に直結する部分もありますので、「チャレンジ 100」の解説までしっかり聞いてください。障害福祉サービス調べは、提出後配布して活用していきます。チャレンジは採点して返却します。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護の基本E C23013	2年前期	講義	2	
担当教員	田部 一順				
授業の概要	地域で暮らす利用者の生活を支えていくために、地域社会における生活ニーズとその支援方法において基礎的な知識を身につけます。介護の現場で活躍している専門職の立場から学び、多職種協働を実践することができるように、専門性や組織について学び、チーム運営の基本を理解できるようにします。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・チームケアを実践するための連携の必要性を理解することができる。 ・保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解することができる。 ・介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携などの多職種協働による介護を実践する意義を理解することができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○	○	○		○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 生活を支えるフォーマルサービス・インフォーマルサービス 2 協働する多職種の機能と役割 3 地域包括支援センター 地域包括支援センターの役割と多職種との連携 4 居宅介護支援事業所 介護支援専門員の役割と多職種との連携 5 住宅改修・福祉用具等を活用した環境整備 福祉用具プランナーの役割と多職種との連携 6 協働する多職種の機能と役割 事例を用いた多職種連携の必要性 7 リハビリの専門職 訪問リハビリの役割と多職種との連携 8 訪問看護ステーション 訪問看護の役割と多職種との連携 9 小規模多機能型居宅介護 小規模多機能型居宅介護の役割と業務内容 10 介護老人福祉施設 特別養護老人ホームの役割と業務内容 11 歯科衛生士 歯科衛生士の役割と多職種との連携 12 訪問入浴サービス 訪問入浴サービスの役割と業務内容 13 外国人とともに働く 外国人の介護職員との交流 14 多職種協働にかかわる専門職の役割と機能 15 多職種協働・連携に求められる能力 				
事前・事後学習について	介護福祉士が介護を行う上で必要な、多職種連携サービスの理解につながる授業です。事前学習を指示された場合は、予習を含めて行ないましょう。授業内で配布された資料の整理や、調べ学習の資料は、整理して実習に活かせるようにしておきましょう。				
準備学習に必要な時間	指定したテキストのページには目を通す。(30分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、チャレンジを行ない要点を理解する。(30分程度)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	40	保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能について		
	実践	0			
	レポート	60	専門職の講義を受けて学んだこと (10×5)、多職種と連携するために必要な力 (10)		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	調べ学習があります。自分の担当の部分について調べ、授業を進めていきましょう。担当した専門職については、授業の進行をしてもらいます。積極的に質問しましょう。				
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」中央法規 「最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無					
科目名	介護の基本F C24014	2年後期	講義	2						
担当教員	小川 晃美									
授業の概要	生活支援を行う上でとても重要な睡眠。高齢者に多い睡眠障害を学び、心地よい眠りを支えるとはどういうことかを学びます。 介護福祉士の役割として、人生の最終段階にある人への介護の視点を学びます。終末期～危篤時・死後の身体的変化や看取りの支援、家族への支援を深めます。 介護従事者の安全として、自分自身を守る法制度や、心身の健康管理、労働環境についても考えます。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠のしくみとはたらきと高齢者に多い睡眠障害及び観察ポイントを理解することができる。 ・人生の最終段階を支えるための基礎的な知識・役割と終末期から危篤状態、死後の身体的変化が理解することができる。 ・介護従事者自身が心身ともに健康で安全に働くための法律や労働環境の権利について理解することができる。 ・介護従事者自身の安全確保のための基礎的知識や腰痛予防について理解することができる。 									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○	○	○							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 睡眠の意義と目的 睡眠がなぜ必要なのかを考え、睡眠のしくみとはたらきの理解を深める。 2. 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響 睡眠の問題を引き起こす原因と高齢者の睡眠障害を理解する。 3. 睡眠における介護技術 睡眠での観察ポイントを理解して高齢者が安眠できる条件を考える。 4. 終末期における介護の意義と目的、「死」とは何かを考える 5. 人生の最終段階における介護職の役割とケアについて学ぶ① ターミナルケアとは、ターミナルケアのポイント、「死の受容プロセス」について学ぶ。 6. 人生の最終段階における介護職の役割とケアについて学ぶ② ターミナルケアのアセスメントを学ぶ。 7. 人生の最終段階に関する「死」の捉え方 終末期から「死」までの身体的及びこころの変化を理解する。 8. 終末期ケアにおける他職種との連携・協働 終末期の介護におけるチームケアの意味及び他職種との連携を理解する。 9. 死別後の家族・職員への支援 グリーフについて、遺族および職員へのケアを学ぶ。 10. 介護従事者の安全・健康問題 働く人の健康や生活を守る法制度を知る。 11. 介護従事者の健康管理① 介護職の労働特性を確認し、対処方法を学ぶ。 12. 介護従事者の健康管理② 介護現場で働く人のストレス、こころの健康問題を学ぶ。 13. 介護従事者の健康管理③ 介護従事者の健康管理と感染症対策を理解する。 14. 介護従事者の健康管理④ 介護福祉士の身体への健康障害の要因、特に腰痛要因について理解する。 15. 労働環境の整備 労働環境・条件の整備について理解する。 									
事前・事後学習について	予定表に基づき、その章を一読してください。また、授業毎にワークシートを配布し、授業終了時にチャレンジテストを配布するので、ワークシートとともに事後学習としてまとめておきましょう。また授業で伝えるキーワードをノートにまとめていきましょう。									
準備学習に必要な時間	指定された箇所を一読してきてください。(30分以上)									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	100	1 高齢者の睡眠・障害と介護の視点、終末期の理解、安全の確保の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	指定した当該ページには目を通しましょう。(30分程度) 授業で配布するワークシートを復習し、授業中に伝えたキーワードやチャレンジ200とともにまとめていきましょう(30分程度)									
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ」中央法規 「最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ」中央法規 「最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ」中央法規									
参考書	金子哲雄著『僕の死に方 エンディングダイアリー500日』小学館 石飛幸三著『平穏死を受け入れるレッスン』誠文堂新光社 山崎章朗『死の体験授業』サンマーク出版 ひすいこたろう『あしたしぬかもよ』ディスカバー・トゥエンティワン 共同通信生活報道部『最期をどう迎えるか』岩波書店									

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	コミュニケーション技術 I C21015	1年 前期	講義	2	
担当教員	矢澤 敦子				
授業の概要	介護福祉士に求められるコミュニケーションの基本を理解し、介護におけるコミュニケーションとは何かを演習を交えて学びます。後期の介護実習においてより良いコミュニケーション実践を行えるように学びを深めます。 また聴覚障害について学び、手話を使ったコミュニケーションの方法を実践します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について学ぶことができる。 ・聴覚障害者の生活や心理を知り、介護する際の方法を理解することができる。 ・コミュニケーションの方法のひとつとして、簡単な手話を覚え実践できるようになる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護におけるコミュニケーションとは 介護におけるコミュニケーションの展開過程 2. 介護におけるコミュニケーションの対象 コミュニケーションの果たす役割 3. 援助関係とコミュニケーション バイステックの7原則 4. コミュニケーション態度に関する基本技術① 傾聴 5. コミュニケーション態度に関する基本技術② 受容、共感、距離 6. 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 演習 7. 目的別のコミュニケーション技術① 演習の振り返り 8. 目的別のコミュニケーション技術② もの見方に変化を生み出す技術 9. 集団におけるコミュニケーション技術 グループワーク 10. コミュニケーション障害への対応の基本 コミュニケーション障害とは 11. 聴覚障害のある人への支援①指文字 12. 聴覚障害のある人への支援②手話のなりたち 13. 聴覚障害のある人への支援③手話を使った自己紹介 14. 聴覚障害のある人への支援④手話を使った自己紹介の発表 15. 聴覚障害のある人への支援⑤手話ソング 				
事前・事後学習について	毎回、その日の授業に沿ったワークシートを配布します。ワークシートをもとに復習をしましょう。授業終了時に「チャレンジ100」を配布します。解答、解説もしますので、間違えたところはその都度見直しましょう。 簡単な手話を覚えて実践できるようにします。指文字や単語など、覚えた手話は忘れないように日々復習しましょう。				
準備学習に必要な時間	指定した当該ページに目を通してください。(20分程度) 授業終了時に配布する「チャレンジ100」を行ない提出してください。(20分程度) 手話の予習、復習(指文字や単語の練習) (20分程度)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	80	介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割。コミュニケーションの基本的理解・聴覚障害についての理解。		
	実践	20	演習への取り組み(10)手話の実践(10)		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	講義だけでなく演習の時間も多くなります。演習の取り組みは評価に入ります。手話で歌や自己紹介を行ないます。普段から、手話を生活に取り入れていくことで忘れないようにしましょう。				
使用テキスト	最新・介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術 第2版」中央法規 最新・介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ 第2版」中央法規 最新・介護福祉士養成講座14「障害の理解 第2版」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無					
科目名	コミュニケーション技術Ⅱ C22016	1年後期	演習	1						
担当教員	矢澤 敦子									
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害を持つ人の特性を理解し、その特性に応じたコミュニケーション方法を学びます。視覚障害を持つ人への移動支援を演習を交えて習得します。 ・チームで介護を行う上で必要な情報共有の知識を学びます。情報共有に必要な技術とその具体的な方法、情報の管理の知識を理解します。 									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害を持つ人の特性に応じたコミュニケーションの方法や移動支援が理解することができる。 ・視覚障害に特性に応じたコミュニケーションを理解することができる。 ・視覚障害に応じた介護技術を習得することができる。 ・介護福祉職チーム・多職種連携におけるコミュニケーションの必要性を理解することができる。 									
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5					
	○		○	○	○					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害のおこるしくみ 2. 視覚障害者の生活の実際 視覚障害を持っている当事者からの学び 3. 視覚障害者とのコミュニケーションの方法 点字の体験 4. 視覚障害者の外出の方法 5. 視覚障害者の外出介助の実際 アイマスクを着用しての外出の体験 6. 視覚障害者の外出介助の実際の振り返り 7. 会議の意義、方法 カンファレンスの練習 8. 介護場面における利用者とのコミュニケーション 実習を想定した演習 9. 実習事例を使った振り返り プロセスレコードを活用した実習の振り返り 10. 介護におけるチームのコミュニケーション 11. 報告・連絡・相談の意義、方法 12. 記録の技術 13. 記録の技術の実際 14. 事例検討に関する技術 エコマップとジェノグラム 15. 情報の活用と管理のための技術 個人情報保護法の基礎的理解 									
事前・事後学習について	<p>視覚障害を持つ人の生活を知るうえで、点字に触れます。自分の身近な場所や物をよく観察して、点字の表記を探してみましょう。</p> <p>演習の前には、視覚障害を持つ人の移動の介助方法等、テキストを一読してから臨みましょう。</p> <p>自己のコミュニケーション傾向を振り返り、11月の実習に向かいましょう。</p>									
準備学習に必要な時間	<p>指定した当該ページには目を通してください。(30分程度)</p> <p>授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ100〉をやって提出してください。(30分程度)</p>									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	80	介護におけるコミュニケーションの理解及び視覚障害に特性に応じたコミュニケーションについての理解							
	実践	0								
	レポート	20	アイマスク体験振り返り (10) 視覚障害者に応じた環境 (10)							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	視覚障害者の介助方法では、実際に街に出かけます。注意事項を指示しますので準備しましょう。									
使用テキスト	<p>最新・介護福祉士養成講座5 「コミュニケーション技術」中央法規</p> <p>最新・介護福祉士養成講座8 「生活支援技術Ⅲ」中央法規</p> <p>最新・介護福祉士養成講座11 「こころとからだのしくみ」中央法規</p> <p>最新・介護福祉士養成講座14 「障害の理解」中央法規</p>									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	生活支援技術A C21017	1 年前期	演習	1	
担当教員	小川 晃美・田部 一順				
授業の概要	身だしなみを整えることは、自分らしさという自己表現の一つであり、意欲の向上や社会参加にもつながります。授業では身だしなみを整えるという行為が日常生活では欠かせないことを理解し、その基本的な介助の方法を身につけます。また、利用者を想定し、実習に向けた生活支援技術を学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身じたくの意義と目的が理解できる。 ・利用者の状況に応じた整容介助に関する介護技術が理解できる。 ・利用者の状況に応じた着脱介助の基本が理解できる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自立した身じたくとは何か 生活習慣から身じたくについて考える 2. 自立度に合わせた整髪介助① 頭皮の清潔保持について理解し実践する。 3. 自立度に合わせた整髪介助② 利用者の状態に応じた整髪介助を行い理解する 4. 整容介助① 耳の清潔の介助について理解する。 5. 整容介助② 洗顔やベッド上で行う洗顔やベッド上で行う洗顔について理解する。 6. 整容介助③ 爪の手入れの介助について理解する。 7. 「おしゃれを支える支援 基礎化粧品や、男性の髭剃りの介助方法を知る。 8. 着脱介助の基本① 衣服のもつ役割を知り、自立支援に向けた着脱介助の方法を考える 9. 着脱介助の基本② かぶりの上着の介助方法を理解する 10. 着脱介助の基本③ 前開きの上着の介助方法を理解する 11. 着脱介助の基本④ ズボン・靴下の着脱介助について理解する 12. 着脱介助の基本⑤ 自立度の高い利用者のベッド上での介助方法を理解する 13. 着脱介助の基本⑥ 自立度の高い利用者のベッド上での介助方法を理解する 14. 利用者役を想定しての介護実践① 15. 利用者役を想定しての介護実践② 				
事前・事後学習について	介護実習に向けた技術になります。実技で使用する物を指示しますので、忘れずに用意してください。授業時にはテキストを見ながら演習はしませんので、事前に指示されたテキストを予習してください。ワークシートとチャレンジを配布しますので、授業後は復習をしてください。				
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ100〉をやっておきましょう(30分程度)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	90	身じたく・整容の介助の基本的理解		
	実践	10	演習への取り組み		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	授業の内容に合わせて、準備をしてください。実習で実践する介護技術ですので、利用者体験も交えて知識技術を学習していきます。チャレンジは次の授業で返却し内容を再確認していきます。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 11 ことごとからだのしくみ」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	生活支援技術B C21018	1 年前期	演習	1	
担当教員	稲垣 みき				
授業の概要	利用者の能力を活用・発揮し、自立に向けた食事の支援に関する知識と技術を習得し、自分が行う実践の根拠が説明できる能力を身につけます。また、口腔ケアの必要性を理解し、実践できるようになります。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の食生活習慣に考慮し、基本的な食事介助ができる。 ・利用者の状態に応じた食事形態を理解できる。 ・利用者の食事に関するアセスメントができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事の意義・目的 「おいしく食べる」をささえるために必要なことを考える。 2. 食事のしくみ 「おいしく食べる」ための食事姿勢と食事環境について理解する。 3. 食事介助の方法と福祉用具 基本的な介助の手順と自助具の実際を知る。 4. 誤嚥・脱水・事故予防とその対応 食事の事故について知り、観察及び予防の視点を理解する。 5. 視覚障害者の食事の支援 クロックポジションを使った支援を体験する。 6. 口腔ケア① 口腔ケアの必要性、嚥下体操、アイスマッサージ等の方法 7. 食事の介助① 8. 食事の介助② 実際に常食を食べながら摂食姿勢を確認する。 9. 自立度の高い利用者の食事介助① 10. 自立度の高い利用者の食事介助② 片麻痺の利用者を想定しての食事介助を演習する。 11. ソフト食とは何か 12. ミキサー食の介助 13. ベッド上で行う食事介助 14. 口腔ケア② 義歯の洗浄、うがいの介助方法 15. 食事の介助における多職種との連携 				
事前・事後学習について	「食べる」ことについての授業となりますので、自分にとっての「食べる」ことについて振り返って来てください。また、テキストの該当ページに目を通して来てください。事後学習として授業で配布したワークシートを復習してください。また、チャレンジ 100 を解答して、質問や感想を記入して提出してください。				
準備学習に必要な時間	指定した該当ページには目を通す (30 分程度) 授業で配布したワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 100〉を提出すること (30 分程度)				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	90	食事のしくみ、食事介助の方法、誤嚥・脱水・事故予防とその対応		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	10	授業態度(物品の準備、片付けに対する姿勢)		
受講上の注意・課題のフィードバック	利用者の気持ちを想像して演習を行ってください。食事に関する知識や食事介助の技術を習得することを目的としていますが、利用者体験も交えて学習していきます。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」 中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	生活支援技術C C21019	1 年前期	演習	2	
担当教員	岩瀬 彩香				
授業の概要	<p>食の支援を行う上で必要な知識と技術を習得する。調理実習を通し、献立の基本、調理技術、介護食や病態食の実際等を学ぶ。また、生活における食の大切さや役割への意識を高めるために、食文化や食生活の変遷や課題について目を向ける。</p> <p>全 15 回の授業は、3 回の「講義と演習」、11 回の「調理実習」、1 回の「実技テスト」で構成する。ただし「調理実習」の回であっても、1 時間程度の講義を実施したのちに調理実習を行うことで理解を深める。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な調理技術を習得し、食材の特性を生かした調理ができる。 ・ 献立を作成する上での留意点や調理の際の衛生管理について理解できる。 ・ 食文化や食生活の変遷・課題を理解し、生活における食の大切さや役割への意識を高め、実践できる。 				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○		
授業計画	<p>1-2. 講義と演習①：調理の支援・栄養の理解Ⅰ（三大栄養素）・調理の基本Ⅰ（身支度・手洗い）</p> <p>3-4. 講義と演習②：栄養の理解Ⅱ（ビタミン・ミネラル）・献立の考え方・調理の基本Ⅱ（調味料の計量）</p> <p>5-6. 調理実習①：日本食の献立Ⅰ（実技テストで作る厚焼き卵の調理を含む）</p> <p>7-8. 調理実習②：郷土食（五平餅を用いた献立）</p> <p>9-10. 講義と演習③：安全な食環境づくり・食事における高齢者への配慮・とろみ剤の扱い方</p> <p>11-12. 調理実習③：高齢者向けの食事（比較的食事に困難のない高齢者向けの食事）</p> <p>13-14. 調理実習④：日本食の献立Ⅱ（実技テストで作る厚焼き卵の調理を含む）</p> <p>※生活支援技術Cで調理したものの一部を、生活支援技術Bの演習内で試食します。</p> <p>15-16. 調理実習⑤：病態食Ⅰ（糖尿病の人のための食事）</p> <p>17-18. 調理実習⑥：介護食Ⅰ（粥、きざみ食、軟菜食）</p> <p>※生活支援技術Cで調理したものの一部を、生活支援技術Bの演習内で試食します。</p> <p>19-20. 調理実習⑦：行事食（ハレの献立）</p> <p>21-22. 調理実習⑧：病態食Ⅱ（高血圧の人のための食事）</p> <p>23-24. 調理実習⑨：病態食Ⅲ（骨粗鬆症の人のための食事）</p> <p>25-26. 調理実習⑩：介護食Ⅱ（ミキサー食、ソフト食）</p> <p>※生活支援技術Cで調理したものの一部を、生活支援技術Bの演習内で試食します。</p> <p>27-28. 実技試験（厚焼き卵の調理）、小テスト、レポート作成</p> <p>29-30. 調理実習⑪：季節の献立（夏の献立）</p> <p>調理実習の回は、授業開始までに身支度を整え、洗米などの準備を済ませておいてください。毎回の授業の終わりに、次回の準備内容をお知らせします。</p>				
事前・事後学習について	<p>実習の段取りをスムーズに進めるために、事前に実習の手順に目を通しておいてください。調理実習の回は、各班 1 名（当番制）、実習計画表を実習日 2 日前までに作成・提出してもらいます。また、家庭等で実習の献立を作ってみるなど台所に立つ機会を増やすことを心がけてください。</p>				
準備学習に必要な時間	<p>毎回、事前に実習の手順に目を通しておいてください。（30 分程度）</p>				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	20	実技試験（厚焼き卵）		
	実践	60	実習の評価表、調理実習計画表、取り組み状況、小テスト		
	レポート	20	まとめレポート（食文化や食の課題、食の支援に対する意識）、献立作成レポート		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	<p>調理実習では各班当番の日が数回あります。当番の日は 8 時 30 分に調理室に集合してください。調理実習の際は身支度を整えて衛生的に行えるようにしてください。</p> <p>実習計画表は確認して、授業開始までに返却します。講義内での説明を聞いて、加筆してください。実習の評価表は目を通し、次の授業の冒頭で返却・復習することで理解を深めます。</p>				
使用テキスト	<p>「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」中央法規</p> <p>「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規</p> <p>「最新・介護福祉士養成講座 1 1 こころとからだのしくみ」中央法規</p>				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	生活支援技術D C21020	1 年前期	演習	1	
担当教員	田部 一順・太和田 雅美				
授業の概要	自分の身体を守りながら介護実践をするために必要な移動・移乗に関する基礎知識と福祉用具等の使い方を学びます。また、その人の障害を理解し、障害に応じて自立に向けた移動の介助ができるように、それぞれの介助方法を体験しながら学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な自分の身体の使い方が理解できる。 ・ ベッドメイキングができる。 ・ 利用者の状況に応じた移動・移乗に関する介護技術が理解できる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベッドメイキング① 介護の基本とボディメカニクスを知る。 ベッドメイキングの意義と方法を理解する。 2. ベッドメイキング② ベッドメイキングができるようになる。 3. 移動動作の基本 移動動作の基本となる理論を理解する。 4. 上方移動・水平移動/車いす介助 上方移動と水平移動、車いす介助の方法を理解する。 5. 寝返り・体位交換 寝返り・体位交換の介助の方法を理解する。 6. 寝返りから起き上がりまで 寝返りから起き上がりまでの介助の方法を理解する。 7. 起き上がりから立ち上がり 起き上がりから立ち上がりまでの介助の方法を理解する。 8. 立ち上がり・歩行の介助 立ち上がりから歩行の介助の方法を理解する。 9. 車いすの介助 介助される利用者の気持ちを理解する。 車いすの介助の方法を理解する。 10. 車いすへの移乗① 利用者に応じた介助の方法①-車いすの介助・上方移動 11. 車いすへの移乗② 利用者に応じた介助の方法②-片麻痺の人の介助 12. 車いすへの移乗③ 利用者役を想定しての介護実践-スライディングボード 13. 車いすへの移乗④ 利用者役を想定しての介護実践-リフトによる移乗 14. 車いすへの移乗⑤ 利用者役を想定しての介護実践-リフトによる移乗 15. 課題演習 それぞれの課題に対して、自分の達成度を評価する。 				
事前・事後学習について	実技では、テキストを見ながら演習はしませんので、演習の前には指示されたテキストを必ず予習してきてください。ワークシートとチャレンジを配布するので、授業後は復習をしてください。利用者役になる時には、その人の気持ちを考えながら体験しましょう。				
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す。(30分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 100〉をやり、POINT は覚える。(30分程度) 実技のチェック表に基づき、自分の理解度を評価しながら進み、最終的に課題応じて自己評価をしましょう。放課後練習を行うのも有効です。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	100	移動・移乗に関わる知識		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	実習で実践する介護技術ですので、利用者体験も交えて知識・技術を学習していきます。どの技術も関連しあっているため、積み重ねが必要になります。復習を確実にしておいてください。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」中央法規出版				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	生活支援技術E C22021	1年後期	演習	1	
担当教員	太和田 雅美・稲垣 みき・田部 一順				
授業の概要	生活に必要な不可欠な排泄・入浴に関する基礎知識と福祉用具等の使い方を学びます。また、その人の障害を理解し、その障害に応じて自立に向けた介助ができるように、それぞれの介助方法を体験しながら学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な入浴介助が理解できる。 ・ 基本的な排泄介助が理解できる。 ・ 利用者の状態に応じた入浴・排泄介助が理解できる。 ・ 利用者の入浴・排泄に関するアセスメントができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自立した入浴とは - 入浴の意義・目的 2. 入浴の介助① 家庭浴での入浴介助の方法 3. 入浴の介助② 特殊浴での入浴介助の方法 4-5. 清潔の保持の介助 全身清拭の方法 6. 尊厳と自立が支える排泄とは 排泄動作と排泄関連の福祉用具の活用 7. 自立への支援-トイレの介助 トイレの介助方法 8. 自立への支援 立位でのパット交換 9-10. ベッド上での支援 自立度の高い人のおむつ交換 11-12. 自立への支援 ポータブルトイレの介助の方法 13. 清潔の保持の介助 座位での手浴 14. 清潔の保持の介助 座位での足浴 15. ベッド上での支援 尿器・便器を使った支援 便秘・下痢への対応 				
事前・事後学習について	<p>実技では、テキストを見ながら演習はしませんので、演習の前には指示されたテキストを必ず予習してきてください。ワークシートとチャレンジを配布しますので、授業後は復習をして下さい。</p> <p>実技演習では、介助者役も体験します。体験を通し、その人の気持ちを考えてみて下さい。</p>				
準備学習に必要な時間	<p>指定した該当ページには目を通す(30分程度)</p> <p>授業で配布するワークシートを確実に復習しておくこと(30分程度)</p>				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	90	入浴の介助、排泄の介助に関わる知識		
	実践	0			
	レポート	10	おむつ体験レポート		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	<p>入浴介助では、水着・バスタオル等、排泄介助では利用者役をする時にスパッツ等が必要になりますので、忘れ物をしないように事前に準備をして下さい。</p> <p>実習で実践する介護技術となりますので、利用者体験を交えて知識技術を学習していきます。どの技術も関連しあっているので、積み重ねが必要になります。復習を確実にしておいてください。</p> <p>おむつ体験レポートは、コメントをつけて返却します。</p>				
使用テキスト	<p>「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規</p> <p>「最新・介護福祉士養成講座 11 ころとからだのしくみ」中央法規</p>				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	生活支援技術F C23022	2年前期	演習	1	
担当教員	太和田 雅美				
授業の概要	障害を理解し利用者の能力を活用・発揮しながら、スポーツや動物とのかかわりを通してライフステージに合わせた生活の豊かさや心身の活性化につながる支援を学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者スポーツの意義と目的を理解する。 ・ 初級パラスポーツ指導員に必要な資質を理解できる。 ・ 高齢者の生活を豊かにする動物の存在を理解し、ともに暮らすために知識を理解する。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各障害の理解 知的障害の基礎的理解の復習 2. 障がい者スポーツ指導員に求められる資質 スポーツのインテグリティを理解する。 3. 障がい者スポーツの意義と理念 障がい者スポーツが、障がい者個人やスポーツ界、社会一般に及ぼす効果について理解する。 4. コミュニケーションスキルの基礎 障がい特性に合わせたコミュニケーション 5. 障がい者スポーツ推進の取り組み 日本の障がい者スポーツの将来像の理解する。 6. 障がい者スポーツに関する諸施策 障がい者スポーツのはじまりや歴史的発展を理解する。 7. 安全管理 スポーツ指導者の安全配慮義務の心得を理解する。 8. 各障がいのスポーツの指導上の留意点と工夫 9. 障がいに応じたスポーツの工夫の基本的視点の理解 10. 車椅子バスケットボールへの参加 車椅子バスケットチームへ参加し、障害に応じたスポーツの工夫を学ぶ。 11. 全国障害者スポーツ大会の概要 全国障害者スポーツ大会の目的を理解する。 12. 人と動物 動物と暮らすことによって生まれる効果 13. 動物と暮らすために 犬や猫に必要なケアについて 14-15. 動物とのふれあい 実際に犬に触れて、介護実践と動物について考える。 				
事前・事後学習について	パラスポーツ関連の報道に注目してください。様々な障がいをもっている人が、スポーツに参加してその人らしく楽しんでいることについて注目し、その人の生活の中のスポーツの存在の意味について考えながら学んでください。また、人と暮らす動物についても学びます。自分のとっての動物の存在を考えていきます。				
準備学習に必要な時間	障がい者スポーツ関連の報道に注目理解しておいてください。動物を飼う家庭が増えています。動物に関連した報道にも関心を向けてください。(30分)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	0			
	レポート	100	パラスポーツ調べ (30) 障害者とスポーツについて (70)・動物が高齢者や障害者にもたらす効果 (30)		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	初級パラスポーツ指導員資格の取得を目指します。 レポートはコメントして返却します。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解」中央法規				
参考書	障がいのある人のスポーツ指導教本 ぎょうせい 人はなぜ犬や猫を飼うのか 人を癒す動物たち 有馬もと 大月書店				

対象学生	介護福祉専攻 2		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	生活支援技術G	C23023	2年前期	演習	1					
担当教員	太和田 雅美									
授業の概要	生活の継続性を支援する観点から、生活を支える家事支援の基本的な知識を身につけ、利用者の生活歴、生活習慣や価値観を尊重し自立した生活を支える家事支援の重要性を学びます。実際に個別性に応じた支援ができるように演習を交えて学びます。5月に行われる地域実習の生活援助の学びとなります。また、高齢者や障害者が安全で快適に生活するために必要な居住環境の整備の知識を学びます。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活を支えるための基本的な家事支援を理解し実際に行うことができる。 利用者の生活習慣に合わせた家事支援の必要性が理解できる。 家事支援での自立支援・重度化防止のための見守り支援を理解できる。 居住環境の整備について理解できる。 									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○		○							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 自立を支える家事 自立支援・重度化防止のための見守り支援の視点を理解する。 自立へ向けた家事の介護 家事の重要性と個別性を理解する。 3-4. 掃除の実際①② 実際に掃除を行い手順を確認する。 5. 自立へ向けた家事 洗濯 洗濯の意義と洗濯マークと具体的な方法 6. 自立へ向けた家事 衣類・寝具の衛生管理 衣替えの習慣と防虫剤の使用、寝具の日常の手入れについて理解する。 7-8. 利用者宅での調理の実際①② 9. 買い物の支援と家庭経営 高齢者の買い物の支援と金銭管理について理解する。 10. 自立へ向けた家事 裁縫 衣類の補修の方法を理解する。 11. 居住環境の整備 住まいの役割と機能を理解する。 12. 加齢を生活空間 生活空間の構成に関して留意することについて理解する。 13. 快適な室内環境 快適に生活するための環境整備について理解する。 14. 安全に暮らすための生活環境 住宅内事故の現状を理解する。 15. 高齢者・障害者の住まい 高齢者・障害者の住まいにおける現状を理解する。 									
事前・事後学習について	5月に行われる地域介護実習へ向けた家事的支援の授業となります。事前学習として指示された内容はしっかり取り組んでください。家事支援は毎日行われるものですので、自分の生活は自分で整えられるように生活の中で、繰り返し行って知識・技術の習得に努めてください。									
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ200〉をやり、POINTは覚える。(30分程度)									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	80	生活を支える家事支援の基本的な知識、居住環境の整備							
	実践	0								
	レポート	20	家事的支援の自己課題について							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	講義と演習を組み合わせで行います。指示された持ち物等はしっかりと準備してください。地域介護実習で実践する生活援助ですので、利用者宅でも行えるように自己課題を明確にし克服できるようにしておいてください。食事を支える調理の知識は、毎日の積み重ねが大きいです。レポートは、コメントをつけて返却します。									
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」 中央法規									
参考書										

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	生活支援技術H C23024	2 年前期	演習	1	
担当教員	太和田 雅美・田部 一順				
授業の概要	この授業では、これまでの生活支援技術の学びに加えて、リフト等福祉用具を活用する応用の技術を学びます。さらに、学外実習における具体的な実践と結び付けて、一人ひとりの心身の状況に応じた介護技術を検討できる力を養います。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具活用による腰痛等対策の有効性が理解できる。 リフト、スライディングシート等を用いた介護技術を実践できる。 利用者の状態に応じた介護技術を考えることができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 基本動作・ベッドメイキングの復習① 環境整備 ベッドメイキングの復習② 基本動作・基本の介助 上方移動・水平移動/車いすの介助 ベッド上での移動 スライディングシートの活用 介護作業とリフト① 吊具の種類と特徴、リフトの種類と特徴 介護作業とリフト② 吊具の種類と特徴、リフトの種類と特徴 実習を想定した介護技術演習① 実習先で実施する介護技術を想定して、具体的なイメージをもって演習する。 実習を想定した介護技術演習② 実習先で実施する介護技術を想定して、具体的なイメージをもって演習する。 実習を想定した介護技術演習③ 実習先で実施する介護技術を想定して、具体的なイメージをもって演習する。 車椅子移乗の応用 スライディングシート・スライドボードの活用 リフレクソロジー入門 介護計画で活用できるリフレクソロジーについて学ぶ リフレクソロジーの実践 足浴後にマッサージをすることを想定して実践する。 具体的な対象者をイメージしたアセスメント演習① 具体的な対象者を想定した福祉用具の選定を行い、その問題点を検討する 具体的な対象者をイメージしたアセスメント演習② リスクマネジメントを考える 具体的な対象者をイメージしたアセスメント演習③ 技術のセルフチェックシートを活用して 				
事前・事後学習について	1 年次に学んだ腰痛を予防するための動作は、心がけて生活できているでしょうか。学内の演習や学外実習で、腰痛予防を考えながら、自分の身体を上手く使えるようになりましたか。日常生活の中で腰痛予防を意識した動きができるように心がけましょう。リフト、スライディングボード、シートが上手く使えるためには、何度も練習が必要です。放課後、自主練習をしましょう。				
準備学習に必要な時間	テキストの指定したページを読んでくる。(30 分程度) 授業で配布したチャレンジを解く。 放課後、自主練習をする。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	40	福祉用具を活用した介護技術		
	レポート	60	福祉用具導入の必要性及び腰痛対策に関する一考察		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	リフトの使い方は体験が重要です。限られた時間内での演習になりますので、集中して行いましょう。技術の習得チェック表を活用して、各自習得状況を把握してください。レポートはコメントをして返却します。				
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 中央法規				
参考書	「新しい福祉機器と介護サービス革命 導入の視点と活用のポイント」テクノエイド協会（日本医療企画） 「セーフティケアの介護・看護-腰痛をおこさない介助技術と福祉用具」上田善敏 ヒューマン・ヘルスケア・システム				

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	生活支援技術 I C24025	2年後期	演習	1	
担当教員	田部 一順・和田 雅美				
授業の概要	重度の障害をもつ利用者の介護までをイメージし、利用者の障害に応じた介護を提供するために、具体的なアセスメントと介助方法を事例を用いて検討し、体験的に学びます。実習で明らかになった自己課題について考えながら、卒業時の到達目標に向けて介護技術を習得することを目指します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の程度に応じた介護技術を検討するためにアセスメントすることができる。 ・ 利用者本位の介護技術が提供できる。 ・ 卒業時の到達目標に準じた介護技術における自己課題を明確にし、それを克服することができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習課題演習① 具体的な場面を想定して、実習で利用者本位の技術が提供できるようにする。 2. 実習課題演習② 〃 3. 実習課題演習③ 実習中に困った事例の課題について考える。 4. 実習課題演習④ 介護実習Ⅱで困難だった事例を取り上げて検討する。 5. 実習課題演習⑤ 実習中に明らかになった課題をを明確化し、克服に向けて演習する。 6. 実習課題演習⑥ 〃 7. 洗髪の介護① 寝たきりの人の洗髪の方法をを学ぶ。 8. 洗髪の介護② ベッド上で実際に洗髪の演習を行う。 9. 事例による実技演習① 浴衣の着脱 10. 事例による実技演習② ターミナルケアの人の浴衣の着脱 11. 事例による実技演習① 国家試験レベルの実技事例を演習し、各自の実技の到達状況を把握する。 12. 事例による実技演習② 国家試験レベルの実技事例を演習し、各自の実技の到達状況を把握する。 13. 事例による実技演習③ 国家試験レベルの実技事例を演習し、各自の実技の到達状況を把握する。 14. 事例による実技演習④ 国家試験レベルの実技事例を演習し、各自の実技の到達状況を把握する。 15. 事例による実技演習⑤ 国家試験レベルの実技事例を演習し、各自の実技の到達状況を把握する。 <p>卒業時実技試験 11/28(火) 介護福祉士養成校の卒業時到達目標である介護技術の習得状況を実技に試験によって確認する。</p>				
事前・事後学習について	介護技術における自己課題を明確にし、それぞれの学外実習の前後には自分の成長を把握してきました。卒業時に習得していなければならない介護技術について、すべて習得できるように努力してください。自分の課題については、空き時間を活用して実技演習を行ってください。				
準備学習に必要な時間	各自の課題に応じて必要な時間				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	100	卒業時実技試験		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	最終実習における介護技術の習得に向けて、各自の課題を明確にして望んでください。また、課題克服に向けて、授業だけは習得できない場合は、予約をとって指導を受けてください。必要に応じて対応します。				
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護過程 I C21026	1 年前期	講義	2	
担当教員	矢澤 敦子				
授業の概要	利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するために必要な介護過程の意義と目的及びその展開のプロセスを学びます。 介護過程の第一段階であるアセスメントの必要性とその方法を、具体的事例により体験的に学び、介護計画がイメージできるように学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開プロセスと基本的視点を理解できる。 ・アセスメントの重要性とその方法を理解できる。 ・介護計画がイメージできる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○	○	○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 生活支援の基本的な考え方 生活支援とは何か理解する 生活支援と介護過程 介護過程とは何かを理解し、その意義と目的及び展開プロセスを知る アセスメントと ICF の視点 ICF の考え方を ICIDH との関係をふまえて学ぶ アセスメント①アセスメントとは何か アセスメントとは何か、アセスメントが適切に行われなければどうなるのか考える アセスメント②情報収集 さまざまな情報収集の方法と種類を学び、正しく取捨選択するためにはどうするのか学ぶ アセスメント③情報収集演習 アセスメントシートの記入の仕方を学ぶ アセスメント④情報収集演習 情報の整理の仕方とまとめのシートへのつなぎ方を学ぶ アセスメント⑤解釈・関連づけ・統合化 1 集めた情報をどのように整理し、分析していくのか学ぶ アセスメント⑥解釈・関連づけ・統合化 2 「どうすればさらによくなるのか」を考える アセスメント⑦解釈・関連づけ・統合化 3 具体的な事例で考える アセスメント⑧課題の明確化 ニーズとは何かを理解しながらその明確化の方法を学ぶ。ニーズの優先順位を考える 計画の立案①個別援助計画とは何か 介護サービス計画と個別援助計画の関係を学ぶ 計画の立案②目標の設定 目標の設定と個別援助計画の立案の手順を学ぶ 計画の立案③具体的な援助内容 1 個別援助計画における具体的な援助内容の基本的な考え方を学ぶ 計画の立案④具体的な援助内容 2 事例について具体的な援助内容を考える 具体的な援助内容を人に伝える方法を学ぶ 				
事前・事後学習について	「覚える」ことより「考える」ことが中心になります。介護過程 I から IV まで段階的に学んで力をつけていきます。すっきりした答えが得られなくても、もやもやしながらも一生懸命考えましょう。授業中にできなかったワークシートは、必ず次回までにやってくるようにしましょう。授業中に出る課題についても、やっていないと授業についてこれなくなってしまう内容です。必ずやってきましょう。				
準備学習に必要な時間	指示があった時は事前学習を行なう。(30 分程度) 授業終了時に配布する「チャレンジ 100」を行ない提出する。(30 分程度)				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	100	介護過程の展開プロセスと基本的視点、アセスメントの理解		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	介護福祉士資格取得の基本となる授業です。授業の中で出てくるキーワードや重要事項は、授業終了時に配布される「チャレンジ 100」に対応しています。また、国試対策にも直結するように、過去問等をふまえています。 次の授業で答え合わせ、解説をしますので必ずやってきましょう。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程 第 2 版」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 第 2 版」中央法規				
参考書	『ヘルプマン!』に学ぶ介護過程 八木裕子 中央法規				

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護過程Ⅱ C22027	1年後期	講義	2	
担当教員	矢澤 敦子				
授業の概要	介護過程Ⅰで学んだ基礎的知識を基に、介護計画の立案方法と実践および評価の方法を学びます。また、事例演習で具体的なアセスメントの方法を実践的に学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画の実施・評価の方法とその留意点を理解することができる。 ・アセスメントの具体的方法を理解することができる。 ・介護計画の書き方をイメージすることができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5
	○	○	○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護計画の実施 介護計画の実施のための準備と実施時の留意点について理解する 2. 評価の意義と目的・評価の方法 介護過程における評価の意義を理解する 3. 高齢者施設の事例を使って介護計画の理解を深める① 事例の理解と情報収集 4. 高齢者施設の事例を使って介護計画の理解を深める② アセスメント演習 5. 高齢者施設の事例を使って介護計画の理解を深める③ まとめ 6. 障害者施設の事例を使って介護計画の理解を深める① アセスメント演習 7. 障害者施設の事例を使って介護計画の理解を深める② まとめのシートの書き方 8. 障害者施設の事例を使って介護計画の理解を深める③ 目標の設定 9. 事例から学ぶ①（2年生合同事例報告会に出席） 2年生の介護過程の展開実習の報告を聞き、その実践について学ぶ 10. 事例から学ぶ②（2年生合同事例報告会に出席） 2年生の介護過程の展開実習の報告を聞き、その実践について学ぶ 11. 事例から学ぶ③（2年生合同事例報告会に出席） 2年生の介護過程の展開実習の報告を聞き、その実践について学ぶ 12. 事例から学ぶ④（2年生合同事例報告会に出席） 2年生の介護過程の展開実習の報告を聞き、その実践について学ぶ 13. 障害者施設の事例を使って介護計画の理解を深める④ 個別援助計画立案演習－計画の立案 14. 障害者施設の事例を使って介護計画の理解を深める⑤ 個別援助計画立案演習－具体的な援助内容の検討 15. 障害者施設の事例を使って介護計画の理解を深める⑥ 個別援助計画立案演習－まとめ 				
事前・事後学習について	具体的な事例を使った演習が増えていくので、授業中に情報収集シートやまとめのシートに記入することが多くなります。授業中に書ききれない場合は、家庭学習で補いましょう。やっていないと、次の授業の内容がわからなくなってしまうので、必ずやりましょう。また、事例演習は、答えがあるわけではないので、自分の発想でプランを立てていきます。そこで必要になるのは、他の授業での学びやさまざまな知識なので、事例に関する情報は、他の科目の予習・復習としてノートをしっかりと作るようにしましょう。				
準備学習に必要な時間	指示があった時は事前学習を行なう（30分～1時間程度） 授業終了時に配布される「チャレンジ100」を次の授業までに行なう。（30分程度）				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	60	介護計画の実施、評価の理解およびアセスメントの具体的方法の習得		
	実践	0			
	レポート	40	事例における調べ学習、2年生事例報告会のまとめ		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	介護福祉士資格取得の基本となる授業です。授業の中で出てくるキーワードや重要事項は、授業終了時に配布される「チャレンジ100」に対応しています。また、国試対策にも直結するように、過去問等を踏まえています。 次の授業で答え合わせ、解説をしますので必ずやってきましょう。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護過程Ⅲ C23028	2年前期	講義	4	
担当教員	太和田 雅美・矢澤 敦子				
授業の概要	ケアマネジメントと個別援助計画の関係性を理解し、災害支援を取り入れた介護計画と在宅における介護計画を、それぞれの特徴を理解しながら、事例を通して個別性に応じた介護過程の展開方法を学びます。 また、地域における居宅サービスについて、住み慣れた地域で暮らし続けることの意味を考えながら居宅サービスの意義と具体的実践方法を学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントと介護過程の関係が理解できる。 ・災害支援を取り入れた介護計画を理解し、個別の利用者に対するアセスメント方法と計画の立案を理解できる。 ・居宅における介護計画を理解できる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○	○	○	○	○
授業計画	<p>(災害支援を取り入れた介護過程の展開－矢澤)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程Ⅱの振り返り 2. 事例（災害によって生活環境を大きく変化せざるをえなかった高齢者の支援）①グループワーク 3. 事例（災害によって生活環境を大きく変化せざるをえなかった高齢者の支援）②発表 4. 事例（災害によって生活環境を大きく変化せざるをえなかった高齢者の支援）③まとめのシートの作成 5. 事例（災害によって生活環境を大きく変化せざるをえなかった高齢者の支援）④まとめのシートの完成 6. 事例（災害によって生活環境を大きく変化せざるをえなかった高齢者の支援）⑤個別援助計画の立案 7. 事例（災害によって生活環境を大きく変化せざるをえなかった高齢者の支援）⑥個別援助計画の完成 8. 事例（災害によって生活環境を大きく変化せざるをえなかった高齢者の支援）⑦個別援助計画の実施（発表） 9. 事例（災害によって生活環境を大きく変化せざるをえなかった高齢者の支援）⑧個別援助計画の評価、まとめ 10. 実習に向けて 情報収集の具体的な方法 11. 受け持ち利用者 A さんの記録からの振り返り 12. グループワーク（グループ内での個別援助計画の発表） 13. グループワーク（グループ内での個別援助計画の見直し） 14. 全体発表（受け持ち利用者 A さんの紹介・個別援助計画）① 15. 全体発表（受け持ち利用者 A さんの紹介・個別援助計画）②発表のつづき.まとめ <p>(在宅における介護過程の展開－太和田)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームアプローチにおける介護福祉士の役割 2. チームアプローチの実際－事例：糖尿病で一人暮らしの C さんの事例で考える多職種連携 3. 都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援①情報収集と情報の理解 4. 都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援②訪問介護計画の検討 5. 都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援③訪問介護計画立案演習 6. 都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援④訪問介護演習へ向けて 7. 家族とのコミュニケーション－家族との関係づくり 8. 家族を支援する視点－相談に応じるコミュニケーション 9. 居宅サービス計画と個別援助計画－ケアプランと個別援助計画の関係 10. 在宅でターミナルを迎える高齢者と家族の生活支援①情報収集と情報の理解 11. 在宅でターミナルを迎える高齢者と家族の生活支援②訪問介護計画の検討 12. 在宅でターミナルを迎える高齢者と家族の生活支援③訪問介護計画立案演習 13. 在宅でターミナルを迎える高齢者と家族の生活支援④サービス内容の検討 14. 在宅で暮らす利用者の生活の理解－他サービスの理解 15. 在宅で暮らす利用者の生活の理解－介護報酬 				
事前・事後学習について	<p>人々はさまざまな場所で暮らしており、その多様性を考えながら一人ひとりの個別性にも対応して介護計画を立てるということは、とても難しいことです。だからこそ、たくさんの引き出しを持ち、幅広い知識と技術と豊かな感性が必要です。授業で扱う事例は必ず読んでみてください。事後には、復習をして各事例の理解を深めてください。</p> <p>5月～7月に行われる学外実習の指導を含みますので、原則として欠席はしないでください。</p>				
準備学習に必要な時間	<p>指示があった時は事前学習（30分～1時間程度） 毎回配布される『チャレンジ』を次の授業までに行う。（30分程度）</p>				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	100	介護計画の立案における基礎的理解		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	<p>介護福祉士資格取得の基本となる授業です。授業の中で出てくるキーワードや重要事項は、授業の最後に配布される『チャレンジ』に対応しています。次の授業で答え合わせをしますので、必ず復習と共にいきましょう。国試対策にも直結するように、過去問等を踏まえています。指示に従って綴っておきましょう。</p>				
使用テキスト	<p>「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」中央法規 「最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術」中央法規</p>				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護過程Ⅳ C24029	2年後期	講義	2	
担当教員	矢澤 敦子				
授業の概要	「介護実習Ⅱ」で受け持ち利用者を持ち、アセスメントから介護計画の立案、実施、評価という一連の介護過程の展開を行ったことを振り返りながら、事例研究とは何かを学びます。また、2年間学んできた介護過程の意義、目的を再確認しながら、科学的思考のもと介護過程を展開する方法を習得します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を総合的にとらえ、一連の介護過程の展開の方法を理解し、個別援助計画を立案することができる。 ・事例検討から、介護実践における基本的視点を理解することができる。 ・介護過程の意義、目的が説明でき、科学的思考で介護過程を展開することができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5
	○	○	○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 介護過程Ⅲの振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の望む暮らしを一緒に考えるために必要な力 2 実習Ⅱの振り返り・グループワーク① <ul style="list-style-type: none"> ・個別援助計画の紹介、意見交換 3 実習Ⅱの振り返り・グループワーク② <ul style="list-style-type: none"> ・個別援助計画の修正 4 事例:介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例 ① <ul style="list-style-type: none"> ・事例の理解、アセスメントシート 5 事例:介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例 ② <ul style="list-style-type: none"> ・まとめのシート 6 事例:介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例 ③ <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 7 事例:介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例 ④ <ul style="list-style-type: none"> ・個別援助計画の立案 8 事例:介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例 ⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (見直し、修正) 9 事例:介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例 ⑥ <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (発表に向けて) 10 事例:介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例 ⑦ <ul style="list-style-type: none"> ・個別援助計画の発表 11 事例:介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例 ⑧ <ul style="list-style-type: none"> ・個別援助計画の発表・まとめ 12 サービス担当者会議① <ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議の意義・目的 13 サービス担当者会議② <ul style="list-style-type: none"> ・演習を通じた体験学習 14 「事例のまとめ」の発表に向けて意見交換、見直し 15 「介護過程Ⅰ～Ⅳ」のまとめ 				
事前・事後学習について	「介護実習Ⅱ」では、受け持ち利用者さんと一緒に個別援助計画を立案・実施します。これまでの介護過程の授業の復習をしっかりとっておきましょう。また実習後には、自らの実践の根拠を説明でき、その実践の評価ができるように、自分で「考える学習」を進めていきましょう。				
準備学習に必要な時間	指示があった時は事前学習 (30分程度) 毎回配布される『チャレンジ』を次の授業までに行う。(30分程度)				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	20	立案した個別援助計画の実施		
	レポート	80	「なぜ介護過程を展開する上で科学的思考が必要なのか」		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	介護福祉士資格取得の基本となる授業です。授業の中で出てくるキーワードや重要事項は、授業の最後に配布される『チャレンジ』に対応しています。次の授業で答え合わせをしますので、必ず復習と共に行いましょう。国試対策にも直結するように、過去問等をふまえています。指示に従って綴っておきましょう。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座9 介護過程」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護総合演習 I C22030	後期	演習	1	
担当教員	太和田 雅美				
授業の概要	初めての介護実習に向けて実習とは何か、心構え、予備知識、動機付け等の準備を行います。実習では、実践力を身につけて、実習後は十分な振り返りを行うようにし、効果的な実習を行えるように学習します。実習指導の経験のある教員による指導を受けることができます。障害福祉サービスについての理解を深め、障害者の生活の場について学びます。本講義は実務家教員の授業で、介護福祉士、社会福祉士資格を有する教員が担当する科目である。介護の実務家としての視点、介護現場での経験を交えて、学生に対して授業を展開していく。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義と目的について理解する。 ・実習に向かう姿勢や心得を理解し実践できる。 ・介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割を理解し実践することができる。 ・障害者の暮らしの場としての施設やそこで働く職種を理解する。 ・障害に合わせた生活支援について理解する。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習概要の理解 2年間の実習の流れを理解する。 2. 実習要項 介護実習にふさわしい身じたく・態度について考える。 3. 実習要項 介護実習全体での共通指導項目と実習目標を理解する。 4. 実習要項の理解と実習目標 実習目標・記録について理解する。 5. 実習要項の理解 実習施設の概要と利用者像を理解する。 6. 学生カンファレンスの方法 実習での学生カンファレンスをロールプレイから学ぶ 7. 介護技術演習 施設の1日の流れを想定し、どのように実習を行うのか考える。 8. 事前訪問の演習 事前訪問を想定し実際に事前訪問のロールプレイを行う。 9. 実習施設事前訪問 指定された時間に実習施設に訪問しオリエンテーションを受ける。 10. 実習前最終確認 事前訪問の報告・最終確認を行う。 11. 記録物の提出・実習評価と振り返りとお礼状について 実習を振り返り自己評価を行い、自己課題を考える。 12. 実習における介護技術の振り返り 実習中にわからなかった生活支援について、その方法や理由を考える。 13. 14. 実習報告会 施設ごと実習施設の概要や利用者の特性に合わせた生活支援を発表する。 15. 実習のまとめと自己課題の明確化 まとめと自己課題と報告書について 				
事前・事後学習について	介護実習を段階的に進めていく最初の指導になるため、わからない点はその都度確認して確実に理解しておいてください。介護の専門教科の知識と関連しているので、他教科の知識を理解しておいてください。				
準備学習に必要な時間	前期で学んだ専門科目を復習し介護実習でより理解を深められるように準備を進めてください。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	30	報告会態度・準備		
	レポート	60	実習報告書の内容		
	その他	10	個別指導での取り組み・受講態度		
受講上の注意・課題のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、すべての授業に出席してください。授業時には忘れ物をしないように準備をして臨んでください。 ・実習で学んだことを報告書にまとめ提出してください。製本して返却します。 ・自己課題を明確にし、2年の実習に向かえるようにしてください。 				
使用テキスト	実習要項・要領配布 「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	介護総合演習Ⅱ	C23031	前期	演習	1					
担当教員	小川 晃美									
授業の概要	介護実習Ⅰ－Ⅱのための実習前・実習後の実習指導と演習の授業です。地域における様々な介護サービスとそこで暮らす利用者の生活を理解し、老いや障害を持っても住み慣れた地域で暮らし続ける仕組みと具体的な介護実践を学びます。 実習指導の経験のある教員による指導を受けることが出来ます。 実務経験のある教員（現場の介護福祉士などの指導）による科目									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅における介護サービスを理解する。 ・居宅サービスの実習から、在宅で暮らす利用者の生活ニーズとサービス提供の方法を理解する。 ・住み慣れた地域で生活を継続するための連携方法を学ぶ。 									
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5					
	○	○	○	○	○					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要項・要領の理解① 実習1-2の目的・目標を理解する。 2. 実習要項・要領の理解② 実習の課題説明・個人目標・個人票について理解する。 3. 記録類の記入方法・目標指導 記録の記入方法の実際と目標の設定の仕方 4. 実習施設の理解と地域における役割① 実習施設と実習で出会う利用者についての理解 5. 実習施設の理解と地域における役割② 実習施設で行う介護技術（アクティビティ） 6. 介護保険制度と障害者総合支援法 在宅で暮らす利用者が利用する制度の理解 7. 8. 在宅で暮らす利用者宅の疑似訪問介護演習①② 事例から考える訪問介護実習を想定し演習する。 9. 事前訪問の方法とマナーについて 事前訪問のマナーについて理解し、どのように行うのか考える。 10. 実習施設事前訪問 指定された時間に実習施設に訪問しオリエンテーションを受ける。 11. 実習前最終確認 事前訪問の報告・最終確認を行う。 12. 記録物の提出・実習評価と振り返りとお礼状について 実習を振り返り自己評価を行い、自己課題を考える。 13. 14. 実習報告会 種別ごとグループワークを行い、そのサービスの意義と目的を話し合いサービスの特徴を発表する。 15. 実習のまとめ 地域介護実習のまとめと自己課題の明確化 									
事前・事後学習について	事前学習としては、前回実習からの課題を明確にし、実習に向かえるよう準備をしておいてください。自己課題と思えることは早めに個別の指導にて教員にアドバイスを御得て行動してください。事後学習として終了後は次の実習に向かって、自己課題を明確にしていきます。授業時には忘れ物をしないように準備をして臨んでください。原則、すべての授業に出席してください。									
準備学習に必要な時間	実習Ⅰ－Ⅰでの課題を明確にしておいてください。そこからこの実習での課題をもって臨みます。記録などの事前学習は各個人で違ってくることになります。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	30	報告会態度(10) 個別指導(20)							
	レポート	60	実習報告書(60)							
	その他	10	個別指導での取り組み・受講態度							
受講上の注意・課題のフィードバック	無断欠席をしないでください。 忘れ物をしないように準備してください。 実習報告書については、製本して振り返りを行います。									
使用テキスト	実習要項・要領配布 「最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習」中央法規									
参考書	特に指定しない									

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	介護総合演習Ⅲ C23032	前期	演習	1					
担当教員	太和田 雅美								
授業の概要	介護実習Ⅰ－Ⅲの実習に向けて、実習の目的や目標を理解しながら主体的に取り組めるようにします。実習では、認知症の方を受け持ち利用者にもち、介護過程の展開におけるアセスメントを実践する力を身に付けます。実習終了後の報告会を通し、自己課題を明確にします。介護実習指導の経験のある教員から指導を受けます。 実務経験のある教員（現場の介護福祉士等の指導）による科目								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者の心身の状況に応じた介護実践の必要性を理解することができる。 ・認知症ケアについて理解することができる。 								
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5				
	○	○	○	○	○				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 自己課題と到達目標について 自己課題の分析をし、具体的な行動計画を考える。 実習要項・要領の理解① 実習Ⅰ-3の目的、目標を理解する。 実習要項・要領の理解② 実習Ⅰ-3の全体の流れと隔週の実習内容を理解する。 記録物の書き方について 情報収集の具体的な方法を考え、書き方について学ぶ。 カンファレンスの方法を理解する 実習施設の理解及び事前訪問について学ぶ 事前訪問 実習施設を訪問し、オリエンテーションを受ける。 実習前の最終確認 事前訪問の報告 記録物の提出・実習の評価と振り返り 実習の評価をつけ、自己課題の到達状況を確認する。 実習で疑問に感じた技術の振り返り 実習中に疑問に感じた技術を振り返り、疑問点を解決させる。 実習報告会に向けた準備 報告会に向けた資料の作成を行う。 実習報告会① 報告会を通し、実習での学びを共有する。 実習報告会② 実習での学びを総括する。 専門的知識の確認① 専門的知識の確認② 								
事前・事後学習について	介護技術が自信のない学生は、放課後及び空き時間を利用して実技の練習をしてください。コミュニケーションが苦手な人は、普段の生活の中で笑顔をつくる練習や、はっきり話す練習を意識してやってみましょう。Ⅰ－Ⅱの課題をふまえて自己課題を明確にし、目標をもって実習にのぞめるように準備をしてください。								
準備学習に必要な時間	不足している介護技術の練習などは、放課後等に個人で行うことになります。自己課題を明確にして確実にやっておいてください。かかる時間は個人で違うと思いますが、規定時間でできないことは、人よりも余分に一定時間の練習は必要であると考えてください。								
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点						
	試験	0							
	実践	80	実習報告会(原稿、態度、質疑応答)						
	レポート	0							
	その他	20	提出物及び個別指導を含む全体の頑張り						
受講上の注意・課題のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、すべての授業に出席をして下さい。無断欠席はしないこと。 ・忘れ物はしないこと。 ・自己課題を明確にし、次の実習に向かえるようにして下さい。 								
使用テキスト	「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規								
参考書									

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護総合演習Ⅳ C23033	通年	演習	1	
担当教員	太和田 雅美				
授業の概要	2年間の総まとめともいえる介護実習Ⅱに向けて自己課題を明確にし、目標達成に向けて主体的に取り組めるようにします。また、受け持ち利用者に対して、一連の介護過程の展開が実践できる力をつけます。実習終了後は、実践した事例をまとめ、自己の介護観を形成することを目指します。介護現場の経験のある教員より指導を受けます。 実務経験のある教員（現場の介護福祉士等の指導）による科目				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用者本位」「自立支援」を重視した介護過程の展開方法を具体的実践を通して理解できる。 ・介護福祉士として卒業時に習得すべき介護技術ができるようになる。 ・自己課題を主体的に克服し、自己の介護観を構築することができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○	○	○	○	○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己課題と卒業時の到達目標に向けて 自己課題を分析し、実習中の課題克服のための具体策を考える。 2. 実習要項・要領の理解① 実習要項・要領にそって実習目標・実習内容を理解する。 3. 実習要項・要領の理解② 実習要項を理解し、実習中のスケジュールを作成する。 4. 記録物の書き方、介護計画の承認の方法 記録物の書き方及び介護計画の実施方法と留意点について学ぶ。 介護計画の承認の方法を理解する。 5. 事前訪問 実習施設を事前訪問し、オリエンテーションを受ける。 6. 介護計画の実施状況の把握と評価の方法 経過記録及びモニタリングと評価の方法を学ぶ。 7. カンファレンスの方法 カンファレンスの目的とその方法について具体的に考える。 8. 事例のまとめ方 実習後に行う事例のまとめについて理解する。 9. 事例のまとめについて 事例のまとめ方及び指導の受け方について理解する。 10. 要旨作成の方法・事例発表について 要旨作成の方法について理解する。 事例の発表について、そのスケジュールと方法について理解する。 11. まとめの進捗状況の確認と個別指導① まとめの進捗状況を確認し、発表に向けて個別指導を受ける。 12. まとめの進捗状況の確認と個別指導② まとめの進捗状況を確認し、発表に向けて個別指導を受ける。 13. まとめの進捗状況の確認と個別指導③ まとめの進捗状況を確認し、発表に向けて個別指導を受ける。 14. 事例報告事例発表の方法、リハーサルについて 報告会の司会等を決定し、発表順を確認する。 15. 2部のリハーサル 2部のリハーサルを行い、発表に向けて準備する。 12/4(木)-12/5(金) 事例報告会 				
事前・事後学習について	自分が立てた個別援助計画は、科学的根拠・論理的根拠に裏付けられていたのかが問われることとなります。勘や経験だけでは、利用者本位の介護実践から逸脱してしまいます。質の高い介護を提供するために、力をつけて欲しいと思います。介護現場には、さまざまな限界がありますが、そこを乗り越えていくのが、介護福祉士養成校で学ぶ皆さんの使命です。2年間の集大成としての事例のまとめは、自分の時間を最大限に使って準備をし、発表では自信をもって自らの介護観を述べてください。				
準備学習に必要な時間	各自、自己課題の分析を行う。(必要時間) 事例のまとめ(各自必要時間-担当教員とのやり取りは平均7~8回で、2年間の総まとめになるため必要な時間は自分の努力に比例する)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	30	実習報告会(原稿、態度、要旨、質疑応答)		
	レポート	40	事例のまとめ		
	その他	30	個別指導を含む全体の頑張り度		
受講上の注意・課題のフィードバック	事例のまとめは授業時間外となるため、各担当教員の指導は予め予約をとって指導を受けるようにする。やり取りの中で指導を行うので、不明な点はわかるまで説明を受けて、修正した事例を確認した上で、次の指導日には前回の赤入れした事例も持参する。				
使用テキスト	実習要項・実習要領 「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規				
参考書	「事例のまとめ方と発表のポイント」佐藤真一著、中央法規				

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護実習 I - 1 C22034	1 年後期	実習	1	
担当教員	稲垣 みき・田部 一順				
授業の概要	<p>障害を持つ利用者の生活の場で実習を行い、障害福祉サービスについて学びます。また、利用者の障害について知り、その障害特性を理解し、その人にあったコミュニケーションの必要性について学びます。さらに、そこで行われている生活支援技術を体験します。実習を体験しながら、自らのコミュニケーションについて振り返りを行い自己課題を明確にします。介護現場の経験のある教員より指導を受けます。</p> <p>実務者経験のある教員（現場の介護福祉士等の指導）による科目</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害福祉サービスの概要とそこで働く職種を理解できる。 ・ 利用者の障害特性の基礎的理解ができる。 ・ 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割を理解し実践することができる。 ・ 障害に合わせた生活支援について理解する。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○	○	
授業計画	<p>実習期間 令和 8 年 11 月 12 日（木）～11 月 26 日（木）10 日間 障害支援施設等での実習</p> <p>第 1 週 実習施設の概要と 1 日の流れを知る。 職員や利用者へ自己紹介を行う。 利用者とのコミュニケーションを体験する。 職員とのコミュニケーションを体験する。 実習内容を記録に書く。</p> <p>第 2 週 前半に引き続き実習を行う。 指導者のもとで、利用者に対する生活支援を体験する。 利用者とのコミュニケーションを体験し自己課題を明確にする。 介護職と連携し働く専門職の役割を知る。 カンファレンスを運営し、実習指導者、教員、実習メンバーと学びを共有する。</p>				
事前・事後学習について	<p>冬期の実習になります。感染症対策など体調管理を含め準備を行ってください。 障害者支援施設等での実習になります。「障害の理解 1」「介護の基本 D」で学ぶ障害福祉サービスの内容と関連した学びとなりますので、そちらの理解も深めてください。</p>				
準備学習に必要な時間	<p>介護総合演習 I で準備について指示をしますので、それを理解し準備してください。介護技術について実習前に各自で練習をしておくなど、計画的に準備を進めてください。</p>				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	100	実習の行動・態度、実習記録など実習全般		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	<p>実習は原則的に全日程出席することが前提です。この実習の課題は、次の実習への課題に繋がります、課題の未達成が多いと次の実習が大変になりますので、準備をしっかりとしておくなど、計画的に進めてください。実習記録・評価はコメントをつけて返却します。</p>				
使用テキスト	<p>実習要項・要領配布 「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規</p>				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護実習 I - 2 C23035	前期	実習	1	
担当教員	小川 晃美・太和田 雅美・田部 一順・稲垣 みき				
授業の概要	<p>利用者の在宅生活を支える事業所で実習を行い、在宅における支援内容について理解します。地域における様々なサービスとそこで暮らす利用者の生活を理解し、老いや障害を持っても住み慣れた地域で暮らし続けるしくみと具体的な介護実践を学びます。また、地域で暮らす利用者・家族について理解し、利用者を取り巻く社会資源について理解します。実習指導の経験のある教員による指導を受けることができます。</p> <p>実務経験のある教員（現場の介護福祉士等の指導）による科目</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らす利用者を支えるサービスについて理解し、多職種連携について理解することができる。 ・居宅介護サービス計画に基づいた個別援助計画について理解することができる。 ・介護サービスの内容・提供の方法を理解し、個別性に応じた介護技術を実践することができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○	○	
授業計画	<p>実習期間 令和 8 年 5 月 8 日（金）～5 月 22 日（金）10 日間の実習</p> <p>訪問介護・通所介護等の事業所で実習を行う。</p> <p>居宅介護サービスの役割を知る。</p> <p>実習先で提供されているサービスを交替して実習する。</p> <p>サービスの対象となる利用者・家族を知る。</p> <p>多職種連携の場であるサービス担当者会議やカンファレンスに参加する。</p> <p>ケアプランと個別援助計画との連携性を理解する。</p> <p>指導者と介護技術を行い、利用者の生活を理解する。</p> <p>訪問介護</p> <p>自宅における生活支援を体験する。</p> <p>訪問時に必要な適切な態度と知識・技術を身につける。</p> <p>訪問介護では指導者と同行し、可能な範囲で家事的支援（掃除、洗濯、衣類の補修、ベッドメイク、調理、買い物等）を行う。</p> <p>在宅で暮らす利用者の生活環境を知る。</p> <p>通所介護</p> <p>介護技術を見学し、体験して技術を習得する。</p> <p>送迎を体験し、車内での安全確保を学ぶ。</p> <p>個別のアクティビティ活動へ参加の支援を行う。</p> <p>集団のアクティビティ活動を体験し内容を知る。</p> <p>利用者の安全確保にはどのような工夫や配置がなされているかを知る。</p>				
事前・事後学習について	<p>介護保険制度の学習や障害者総合支援法のサービスをよく理解しておいてください。地域で暮らす利用者宅へ訪問して、指導者と共に生活援助を行うので、家事援助の基本（野菜の皮をむく、掃除機をかけるなど）ができるように経験を積んでおいてください。実習後、報告書を作成し介護実習のまとめとします。</p>				
準備学習に必要な時間	<p>介護総合演習で実習に向けて準備について指示しますので、各自準備を行ってください。介護技術についても実習前に各自で課題に取り組むなど計画的に行ってください。特に家事支援については、自己課題を明確にし、その課題にどう取り組むのかを考え準備してください。</p>				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	100	実習の行動・態度・実習記録など実習全般		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	<p>実習後に報告書をまとめ、実習中の振り返りを行い、地域介護実習のまとめを行います。実習評価・記録に評価・コメントをつけて返却します。</p>				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護実習 I - 3 C23036	前期	実習	1	
担当教員	太和田 雅美・小川 晃美・田部 一順・稲垣 みき				
授業の概要	<p>特別養護老人ホーム・グループホームに分かれて実習を行い、生活の継続性を理解し、認知症の特性に応じた支援の方法、地域との関わりを学び、住み慣れた環境で生活を送ることの意味について考えます。さらに、受け持ち利用者さんを持ち、介護過程の展開におけるアセスメントの実際を体験しながら学びます。</p> <p>実習報告会では、実習施設の違いについて互いの発表の中から学びます。介護現場の経験のある教員より指導を受けます。</p> <p>実務経験のある教員（現場の介護福祉士等の指導）による科目</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の特性に応じた自立支援を理解する。 ・利用者とのかかわり方の実際を学ぶ。 ・介護過程の展開におけるアセスメントの方法を理解する。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○	○	
授業計画	<p>実習期間 令和 8 年 6 月 22 日（月）～7 月 3 日（金）10 日間 前半 6 月 23 日～6 月 27 日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の介護理念、事業内容、日課や週間計画・年間計画、地域との関わり等についてオリエンテーションを受ける。 2. 利用者及び職員とのコミュニケーションの中で、これまでに学んだことを実践してみる。 3. 指導者の指導の下、利用者への介護技術を体験しながら学ぶ。 4. 受け持ち利用者の情報収集を行う。 <p>後半 6 月 30 日～7 月 4 日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち利用者とのコミュニケーションを工夫しながらアセスメントを行い、生活ニーズを明らかにする。 2. 指導者と共に介護技術を体験し、利用者の個性を意識しながら状態に応じた介護技術を学ぶ。 3. 実習を振り返り、自分の介護実践についての経過と考察を作成し、学生カンファレンスで発表する。 				
事前・事後学習について	<p>実習 I-1・2 で、自分はどんな課題があったのかを明確にし、その課題に対して、この実習前、実習中にどのように取り組むのかをしっかりと考えてください。</p> <p>受け持ち利用者のアセスメントを行うので、介護過程のテキストやこれまでの授業ノートを復習しておいてください。次の介護実習 II でも介護過程の展開はありますので、解らないところは早めに解決しておいてください。</p>				
準備学習に必要な時間	<p>介護総合演習で準備については指示しますので、それをしっかりと行ってください。</p> <p>介護技術についても実習前に各自で練習しておくなど準備を計画的にしておいてください。</p> <p>各個人の状況により準備時間は違いが出ます。</p> <p>実習中にはアセスメントが課題になるので、実習場でできるように練習や準備をしておいてください。わからない部分は確認を必ずしておいてください。</p>				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	100	実習中の態度、実習記録など実習全般		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	<p>実習は原則的には全日程出席することが前提です。</p> <p>この実習での課題は、次の実習 II への課題となりますが、課題の未達成が多いと次の実習が困難になりますので、準備をしっかりと行い実習中の課題についてはクリアできるようにしておきましょう。特に次の実習では今回の実習で行ったアセスメントを短期間で行うので、できなかった部分は必ず復習しておきましょう。</p> <p>実習についての評価は、自己評価、実習担当者の評価、教員の評価をつけ返却をします。</p>				
使用テキスト	<p>実習要項・要領配布 「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規 「最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規</p>				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	介護実習Ⅱ C24037	後期	実習	4	
担当教員	太和田 雅美・小川 晃美・田部 一順・稲垣 みき				
授業の概要	本実習では、介護技術全般の習得を目指しながら、介護過程の展開を通して、介護福祉士として必要な技術と知識を身につけていきます。学内で学んだ知識・技術・態度を介護現場で具体的に実践し、基本的な技術が実施できるように、すべての場面で実践的に学びます。また、受け持ち利用者の介護過程の展開実践を通して、利用者理解を深め、自己の介護観を形成し、介護福祉専門職としての態度を養います。介護現場の経験のある教員より指導を受けます。 実務経験のある教員（現場の介護福祉士等の指導）による科目				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を総合的にとらえ、一連の介護過程が実践できる能力を養う。 ・あらゆる場面を通して自己啓発を図り、介護実践における基本的技術を身につけ、専門職としての態度を形成する。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○	○	○	○	○
授業計画	<p>実習期間 前半 令和 8 年 8 月 25 日(火)～9 月 10 日(木)13 日間 後半 令和 8 年 9 月 14 日(月)～10 月 9 日(金) 17 日間</p> <p>第 1 週 受け持ち利用者とのコミュニケーションを図りながら、情報収集・アセスメントを行う。 1. 施設の介護理念、事業内容、日課や週間計画・年間計画等についてオリエンテーションを受ける。 2. 受け持ち利用者の情報収集を行い、全体像を捉える。 3. 指導者との指導の下、利用者への介護技術の方法を学ぶ。</p> <p>第 2 週 利用者の全体像をアセスメントし、介護ニーズを明らかにし、個別援助計画を立案する。 1. アセスメントを行い、生活ニーズを明らかにする。 2. 個別援助計画の原案を作成する。 3. それぞれの利用者への援助方法について学び、指導の下で介護技術を実践する。</p> <p>第 3 週 受け持ち利用者の個性に応じた介護計画を立案し、チームに承認を得る。 1. 個別援助計画を説明し、承認を得る。 2. 承認された個別援助計画にそって実践し、その経過を記録していく。 3. 自分の介護技術について中間評価を行い、課題を明らかにすると共に、課題解決の取り組みを検討する。</p> <p>第 4～5 週 個別援助計画を実践しながら経過を観察し、必要に応じて評価・修正する。 1. 個別援助計画にそって実践し、その経過を記録していく。 2. 実践毎、計画に基づいて評価し、修正・追加等行う。 3. 自己課題に基づいて、介護実践を行う。</p> <p>第 6 週 実習全体を振り返り、自己の介護観を形成する。 1. 実習を振り返り、自分の介護実践についての経過と考察及び個別援助計画を実践してみたの振り返りを作成し、学生カンファレンスで発表する。</p>				
事前・事後学習について	最終実習です。介護福祉士として必要な技術を習得するために、自分の「できること」と「できないこと」を明確にして、「まだできていないこと」を積極的に体験し、「できる」ようになってください。そのためには、実習前の介護総合演習での積極的な取り組みと、介護技術の自主練習が大変重要です。また、実習中には積極的に体験させてもらう姿勢も大切です。受け持ち利用者の介護過程の展開は、2年間のまとめとなる実習ですので、全力投球してください。				
準備学習に必要な時間	受け持ち利用者のアセスメント及び介護計画の立案に際しては、多様なニーズに応えるための知識と技術が求められます。これまでのすべての教科の復習と実践に活かせるための準備を備えておく必要があります。特に夏休みには、疾病の理解、障害の理解、実践に必要な技術をくり返し復習しておきましょう。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	100	実習中の態度、実習記録、介護過程の展開など実習全般		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	受け持ち利用者の事例をまとめ『事例報告会』にて発表します。 事例をまとめる過程で、教員とのやり取りを通して、自己課題を振り返り自分と向き合うと共に、専門的知識を確認しながら事例の理解を深めます。				
使用テキスト	実習要項・要領配布 「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」中央法規 「最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無					
科目名	こころとからだのしくみ I C31038	1年 通年	講義	4						
担当教員	小川 晃美・村山 真紀子									
授業の概要	介護実践に必要な根拠となる基本的な人体の構造と機能を日常生活動作と関連付けて学びます(骨格系・筋系、感覚器系、血液・循環器系、呼吸器系・内分泌・代謝系)。また、人間の成長と発達の基本的なしくみを踏まえ、老化や加齢に伴い、身体にはどのような変化が起き、日常生活にどのような影響が出てくるのか、高齢者に多い病気の原因や症状、治療や生活支援の方法についても学びます。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染の基礎的な知識、予防法について理解することができる。 ・ バイタルサインの基礎知識を理解することができる。 ・ からだのしくみ・はたらきについて理解し、生活支援を行うための根拠を述べることができる。 ・ 成人および老年期の老化や加齢に伴う身体的変化が、日常生活にどのような影響を及ぼすかについて理解することができる。 ・ 高齢者に多い病気の原因や症状、治療や生活支援について理解することができる。 									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○		○							
授業計画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の基礎知識① 感染が発生する要因、基礎的知識、感染対策について理解する。 2. 感染の基礎知識② 感染予防と正しい手洗、うがい方法や、手袋の着脱方法など基本的な技術を学ぶ。 3. からだのしくみ 身体の名前を知る。細胞・組織・器官・器官系さらにはからだの方向や位置を示す用語などを学ぶ。 <p>【骨格系・筋系】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 骨・関節のしくみ 骨と関節のしくみとはたらきを学ぶ。 5. 筋肉のしくみ 筋肉のしくみとはたらきを学ぶ。 6. からだを動かすしくみ 骨・関節や筋肉によるからだを動かすしくみを学ぶ。 7. 老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響 骨格系・筋系の機能変化と日常生活への影響について学ぶ。 8. 高齢者に多い骨格系・筋系の病気① 変形性膝関節症、関節リウマチについて症状と生活支援を学ぶ。 9. 高齢者に多い骨格系・筋系の病気② 骨折や変形性脊椎症、脊柱管狭窄症について症状と生活支援を学ぶ。 <p>【感覚器系】</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 感覚器のしくみとはたらき① 感覚器とは、視覚、聴覚平衡感覚器のしくみとはたらきについて学ぶ。 11. 感覚器のしくみとはたらき② 嗅覚・味覚・感覚器としての皮膚のはたらきについて学ぶ。 12. 皮膚のしくみ 皮膚の機能・発汗のしくみについて学ぶ。 13. 老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響 視覚・聴覚及び平衡感覚の機能変化と日常生活への影響について学ぶ。 14. 老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響 嗅覚・味覚、感覚器としての皮膚の機能変化と日常生活への影響について学ぶ。 15. 高齢者に多い目や耳の病気および皮膚の病気 白内障、緑内障、加齢黄斑変性、加齢性(老人性)難聴、老人性皮膚掻痒症などについて症状と生活支援を学ぶ。 									

	<p>(後期)</p> <p>【血液、循環器系】</p> <p>16. 心臓のしくみとはたらき 心臓のしくみとはたらきを学ぶ。</p> <p>17. 循環器のしくみとはたらき 循環器のしくみとはたらきを学ぶ。</p> <p>18. バイタルサインの基礎知識 バイタルサインとは何か基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>19. バイタルサインの測定</p> <p>20. 血液・体液・リンパ系のしくみとはたらき 血液・体液・リンパ系のしくみと機能を学ぶ。</p> <p>21. 老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響 血液・循環器系の機能変化と日常生活への影響について学ぶ。</p> <p>22. 高齢者に多い血液・循環器系の病気① 高血圧症、不整脈について症状と生活支援を学ぶ。</p> <p>23. 高齢者に多い血液・循環器系の病気② 虚血性心疾患、内部障害として心不全や心臓機能障害について症状と生活支援を学ぶ。</p> <p>24. 呼吸器系のしくみとはたらき 呼吸のしくみとはたらきについて学ぶ。</p> <p>25. 老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響 呼吸器系の機能変化と日常生活への影響について学ぶ。</p> <p>26. 高齢者に多い呼吸器系の病気 肺炎やCOPDなどについて症状と生活支援を学ぶ。</p> <p>27. 酸素療法・ペースメーカーについて 呼吸機能障害のある人が使用している酸素療法と、心臓機能障害の人のペースメーカーについて基礎知識を深める。</p> <p>【内分泌・代謝系】</p> <p>28. 内分泌のしくみとはたらき 内分泌系のしくみとはたらきについて学ぶ。</p> <p>29. 高齢者に多い内分泌・代謝系の病気① 糖尿病について原因と症状、生活支援を学ぶ。</p> <p>30. 高齢者に多い内分泌・代謝系の病気② 脂質異常症と痛風(高尿酸血症)について原因と症状、生活支援を学ぶ。</p>		
事前・事後学習について	授業予定表に沿ってその章を一読してきます。ワークシートを授業毎に配布し、授業終了時にチャレンジで授業内容を確認します。ワークシートとともにまとめておきましょう。		
準備学習に必要な時間	授業予定表を見てその章に目を通しておきましょう(30分以上)		
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点
	試験	100	感染の基礎知識と予防法について、からだのしくみとはたらきの理解
	実践	0	
	レポート	0	
	その他	0	
受講上の注意・課題のフィードバック	<p>からだの部位など専門的な用語は覚えにくいかもしれません。理解できないことは早めに質問したり、わからない用語などは調べて自分のものにしていきましょう。</p> <p>自立支援、生活支援技術の基礎となる知識を学んでいく科目です。それらの科目と関連付けて学んでいきましょう。</p>		
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 3 「最新・介護福祉士養成講座 6 「最新・介護福祉士養成講座 7 「最新・介護福祉士養成講座 11	介護の基本Ⅰ 生活支援技術Ⅰ 生活支援技術Ⅱ こころとからだのしくみ	中央法規出版 中央法規出版 中央法規出版 中央法規出版
参考書			

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	こころとからだのしくみⅡ (1年) C32039	1年前期	講義	2	
担当教員	村山 真紀子				
授業の概要	介護実践に必要な根拠となる基本的な人体の構造と機能を日常生活動作と関連付けて学びます(消化器系、泌尿器系、生殖器系、脳・神経系)。また、人間の成長と発達の基本的な考えを踏まえ、老化や加齢に伴い、身体にはどのような変化が起き、日常生活にどのような影響が出てくるのか、高齢者に多い病気の原因や症状、治療や生活支援の方法についても学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・からだのしくみ・はたらきについて理解し、生活支援を行うための根拠を述べることができる。 ・成人および老年期の老化や加齢に伴う身体的変化が、日常生活にどのような影響を及ぼすかについて理解することができる。 ・高齢者に多い病気の原因や症状、治療や生活支援について理解することができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5
	○		○		
授業計画	<p>【消化器系】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事のしくみ なぜ食事をするのか、栄養や食事に関連したからだのしくみを学ぶ 2. 消化器のしくみとはたらき 消化機能のしくみとはたらきについて学ぶ 3. 消化腺のしくみとはたらき 消化腺のしくみとはたらきについて学ぶ 4. 老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響 消化器系の機能変化と日常生活への影響について学ぶ 5. 高齢者に多い消化器系の病気 高齢者に多い、消化性潰瘍、逆流性食道炎などの病気とその症状について学ぶ 6. 口腔の病気と生活上の留意点 高齢者に多い歯周病について学び、生活上の留意点を学ぶ <p>【泌尿器系・生殖器系】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 泌尿器系のしくみとはたらき 泌尿器系とは何か、排尿のしくみとはたらきを学ぶ 8. 排泄のしくみとはたらき 排尿・排便の正常・異常について学び排泄状態の指標を知る 9. 生殖器系のしくみとはたらき 生殖器系とは何か、生殖のしくみとはたらきについて学ぶ 10. 老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響 腎及び泌尿器系・生殖器系の機能の変化と日常生活への影響について学ぶ 11. 高齢者に多い腎・泌尿器系の病気と日常生活への影響 <p>【脳・神経系】</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 脳のしくみとはたらき① 基本的な脳、脊髄の構造と役割について学ぶ 13. 脳のしくみとはたらき② 中枢神経と末梢神経のはたらきについて学ぶ 14. 老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響 脳・神経系の機能の変化と日常生活への影響について学ぶ 15. 高齢者に多い脳・神経系の病気と日常生活への影響 				
事前・事後学習について	事前学習として、授業予定表に沿ってその章を一読してくる。授業毎にワークシートとチャレンジを配布し、授業終了時にチャレンジで授業内容を振り返り、確認します。事後学習としては、チャレンジの復習と授業で伝えるワークシートのキーワードを中心にノートにまとめておきましょう。				
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30分程度) 授業で配布するワークシート、チャレンジについて確実に復習すること(30分程度)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	100	からだのしくみとはたらき。老化・加齢に伴う身体的変化。高齢者に多い病気、治療、生活支援。		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	からだの部位や医療用語など難しいと感じるかもしれません。理解できないところは早めに質問したり、わからない用語などは調べて自分のものにしていきましょう。毎回配布する「チャレンジ」は国家試験対策にもなりますので、日々知識を積み重ねていってください。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」中央法規出版 「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」中央法規出版 「最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」中央法規出版 「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規出版				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	こころとからだのしくみⅢ C33040	2年 前期	講義	2	
担当教員	小川 晃美				
授業の概要	生活を支援するうえで介護職が現場で見たり経験する「医行為でない行為」を中心に、安全に実施できるように技術・ポイントを学びます。また高齢者に多い感染症と感染対策、介護福祉職に必要な薬の基礎知識、応急手当について学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・感染の基礎的知識及び高齢者に多い感染症について理解することができる。 ・生活支援における「医行為ではない行為」と「医行為」の違いについて理解することができる。 ・介護職に必要な薬の知識・管理方法について理解することができる。 ・介護職が行うことができる医行為について演習を通して留意点を理解することができる。 ・応急手当について体験を通して知識を深めることができる。 				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の基礎知識 感染が起こる要因や感染症対策について理解し、実習前に感染症対策としての手洗い方法を再確認する。 2. 介護職が行うことができる「医行為でない行為」について 介護職が行うことができる「医行為ではない行為」と「医行為」の違いについて知る。 3. 日常生活における「医行為でない行為」について確認する 血圧・脈拍測定法の注意点などの再確認、爪切り、耳かき、貼り薬の除去方法、点眼薬の方法 4. 温罨法・冷罨法 罨法の目的や、効果・種類を理解し、湯たんぽ及び氷枕の目的、方法について学ぶ。 5. 介護職に必要な薬の知識、薬の成り立ちと効果 高齢者と薬の問題、薬の形態（種類）、服薬時間などを学ぶ。 6. 高齢者に多い疾病と症状から見る服薬管理と留意事項 注意が必要な薬と効果について、服薬管理の留意点について学ぶ。 7. 褥瘡とは 褥瘡の原因を知り、その好発部位及び症状について学ぶ。 8. 褥瘡の予防 褥瘡に対する予防方法を考える。 9. 膀胱・直腸障害による人工肛門・人工膀胱について理解する。 ストーマについて理解し、ストーマ装具の交換及び介護職の役割を理解する。 10. 透析について 腎機能障害のある人が行っている人工透析について理解を深める。 11. 高齢者に多い感染症①（肺炎、インフルエンザ、結核等） 高齢者に多い肺炎、インフルエンザ、結核等について理解する。 12. 高齢者に多い感染症②（ノロウイルス、疥癬、MRSA、尿路感染症等） 高齢者に多いノロウイルス、疥癬、MRSA、尿路感染症等について理解する。 13. 酸素療法・ペースメーカーについて 呼吸機能障害のある人が使用している酸素療法について、心臓機能障害の人のペースメーカーについて基礎的知識を深める。 14. 応急手当（演習）① 応急手当とはどういうことなのか基礎的な知識を深める。 15. 応急手当（演習）② 応急手当について理解し、骨折の固定法、三角巾の使用法、包帯法を学ぶことができる。 				
事前・事後学習について	授業毎にワークシートとチャレンジを配布します。ワークシートを見直しを行ない復習してください。また、「チャレンジ」は国家試験対策にもなりますので要点を押さえることができます。チャレンジはその時間毎で回収するのでわからないところは解決できるように質問してください。また、医療用語・語句が多く出てきます。調べて自分のものにしていってください。				
準備学習に必要な時間	実習前に必ず血圧脈拍測定方法や爪切りの仕方などを再度確認して準備していきましょう。また、授業の予定表に基づきテキストを一読しておきましょう（30分以上）				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	100	介護職が行う「医行為でない行為」について、気を付けるポイントなど、感染症の基礎知識 薬の知識		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	介護職が現場で行う「医行為でない行為」にはどのようなものがあり、どのような点に注意すべきなのかを実習等で確認してみてください。また、感染予防として手洗いの方法などは日常的に行っている行為です。日頃からどのようにしているのか思い返し、日常の中で実践してください。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」 中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	発達と老化の理解 I C33041	2 年前期	講義	2	
担当教員	村山 真紀子				
授業の概要	老化や加齢に伴い、身体にはどのような変化が起き、日常生活にどのような影響が出てくるのかを学びます。高齢者に多い症状の現れ方、廃用症候群などを学び、生活を支援していく上での基本的な知識を深め、観察点を押さえていきます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・老化や加齢に伴う身体的機能変化が、日常生活にどのような影響を及ぼすかについて理解することができる。 ・廃用症候群及び老年症候群の特徴を理解することができる。 ・高齢者に多い症状や特徴を学び、生活を支援する上での留意点が理解できる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 生活習慣病と脳血管疾患 生活習慣病とはどのようなものか、脳血管疾患の分類や症状などを学ぶ。 言語障害・失語症 高次脳機能障害の 1 つである失語症について学び特性を理解、支援について学ぶ 生活習慣病とその生活上の留意点 生活習慣と関連したがん、特に胃・肺・大腸がんについて学ぶ。 老化に伴う身体的機能の低下と日常生活への影響 加齢に伴う生理機能の低下、免疫機能・体温調節機能の変化と日常生活への影響について学ぶ。 高齢者に多い神経系及び精神障害について 神経系の病気と、高齢者特有の精神障害について学び生活上の留意点を学ぶ。 高齢者の症状・疾患の特徴 高齢者の症状や疾患の特徴について理解する。 生活不活発病（廃用症候群）とは 生活不活発病とは何か、その起こり方、高齢者における特徴を学ぶ。 老年症候群とは 老年症候群とは何か、その分類と特徴を学ぶ。 老年症候群を知る① 65 歳以上に多い浮腫やめまいがどのように起きるのか、またその留意点を学ぶ。 老年症候群を知る② 65 歳以上に多いかゆみがどのように起きるのか、またその留意点を学ぶ。 老年症候群を知る③ 65 歳以上に多い低栄養の捉え方、日常における観察について理解し、日常生活への影響を学ぶ 「死」とはなにか 高齢者における熱中症・脱水 熱中症、脱水について学び、生活での留意点を理解する。 肝機能障害、免疫機能障害の病気と生活上の留意点 内部障害である肝機能障害、免疫機能障害について理解し、日常生活への影響を学ぶ 職種との連携 保健医療職とのチームワークの必要性、連携について学ぶ 				
事前・事後学習について	授業予定表に沿ってその章を一読してきてください。ワークシートを授業毎に配布し、授業終了時にチャレンジで授業内容を確認します。ワークシートとともにまとめておきましょう。				
準備学習に必要な時間	授業予定に沿ったテキストを一読してきてください（30 分以上）				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	100	老化・加齢に伴う身体機能がどのように変化するのか、また、高齢者の様々な症状がどのような病気から起こり、どのように生活支援の上で留意していくか。		
	実践	0	0		
	レポート	0	0		
	その他	0	0		
受講上の注意・課題のフィードバック	<p>「こころとからだのしくみ」が基本となりますので復習しておいてください。</p> <p>資料などが多いですが、しっかりノートをとっていきましょう。医学用語が多く、読み方や、意味の分からない語句が出てきます。そのままにせず調べ、キーワードとともにまとめていきましょう。授業の中で内容がわからなかったことはそのままにせず、チャレンジ等で質問してください。</p>				
使用テキスト	<p>「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」 中央法規</p> <p>「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」 中央法規</p> <p>「最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解」 中央法規</p>				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	発達と老化の理解Ⅱ C34042	2年後期	講義	2	
担当教員	村山 真紀子				
授業の概要	対象者の生活を支援することより、健康とは何かを考え、人間の欲求について学びます。そして生涯に及ぶ成長発達を生涯発達心理としてとらえ、それぞれの発達段階における生理・心理的特徴を学びます。また、一生涯にわたる発達過程の最後の段階である「老年期」と、そこでの発達課題を達成するうえで重要となるサクセスフル・エイジング等の視点について学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の定義を理解し、健康観を考えることができる。 ・人間の欲求について、欲求の種類と内容を理解できる。 ・それぞれの発達段階における生理・心理的特徴を理解できる。 ・エリクソンおよび他の発達段階説を理解できる。 ・老化による身体的機能や社会的環境の変化が心理や行動に与える影響について理解することができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康とは何か 健康の定義を学び、健康観について考える。 2. 人間の欲求とは 心理学的な側面から基本的欲求や社会的欲求を理解する。 3. 自己実現と尊厳・こころのしくみ 自己概念を理解し、こころのしくみを理解する。 4. 成長・発達の考え方 発達の概念・生涯発達の段階について理解する。 5. 成長・発達の原則・法則及び影響する要因 成長・発達の原則・法則及び成長・発達に影響する諸要因について理解する。 6. 人間の発達段階と発達課題 人間の発達段階における一般的な特徴を学び、発達課題について理解する。 7. 身体的機能の成長と発達 身体的な成長と発達および運動機能発達の特徴について理解する。 8. 心理的機能及び社会的機能の発達 心理的機能及び社会的機能の発達について理解する。 9. 発達理論と超高齢期 発達についての様々な理論を理解する。 10. 老年期の定義、老化 老年期の定義を理解し、老化について理解する。 11. 老年期の発達課題 老年期の発達の特徴および人格について理解する。 12. 老年期の今日的課題 老年期の喪失体験とセクシュアリティを学び、今日的課題を理解する。 13. パーソナリティの変化 高齢者のパーソナリティについての理論を理解する。 14. 老化と動機づけ・適応 適応規制について学び、不適応状態を緩和するための心理について考える。 15. 老化にともなう社会的な変化と生活への影響 高齢者の社会生活を知り、老化理論を理解する。 				
事前・事後学習について	予定表に基づき、その章を一読してくる。また、授業毎にワークシートとチャレンジ 200 を配布するので、事後学習としてまとめておくこと。				
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す (30 分程度) 授業で配布するワークシート、チャレンジについて確実に復習すること (30 分程度)				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	100	こころのしくみの理解、発達段階、老年期の心理・行動		
	実践	0			
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	毎回、チャレンジをすることで知識の積み重ねになります。理解できないことは早めに質問したり、調べることで自分のものにしておきましょう。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」 中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 1		開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無				
科目名	認知症の理解 I	C32043	1 年後期	講義	2					
担当教員	村山 真紀子									
授業の概要	認知症の医学的側面からみた基礎的知識を中心に学び、認知症に伴うところとからだの変化が日常生活に及ぼす影響を理解していきます。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の原因となる主な疾病や症状の特徴が理解できる。 ・ 認知症によって引き起こされる機能の変化や心理的变化、日常生活への影響について理解できる。 									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○		○	○						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症とは何か 認知症の定義を知り認知症の特徴を理解する。 2. 脳のしくみ 老化に伴う脳の変化と認知症の関係について理解する。 3. 中核症状の理解 事例をもとに中核症状について考える。 4. 生活障害の理解 認知症における生活障害を考える。 5. BPSD の理解 BPSD の要因・症状について考える。 6. 認知症の原因疾患からみた症状① -アルツハイマー型認知症- 7. 認知症の原因疾患からみた症状② -血管性認知症- 8. 認知症の原因疾患からみた症状③ -レビー小体型認知症- 9. 認知症の原因疾患からみた症状④ -前頭側頭型認知症- 10. 視覚教材からの学び 映画『ケアニン』から認知症の人及びその家族について考える。 11. 認知症の原因疾患からみた症状⑤ -若年性認知症- 12. 認知症の原因疾患からみた症状⑥ -その他の原因疾患の理解- 13. 認知症に類似した症状の理解 -せん妄・うつ病- 14. 認知症の診断と重症度についての理解 15. 認知症の治療・予防法についての理解 									
事前・事後学習について	予定表に基づき、その章を一読してくる。また、授業毎にワークシートとチャレンジ 100 を配布するので、事後学習としてまとめておく。参考書等、認知症の当事者の手記などを読んで認知症の理解を深めておくこと。									
準備学習に必要な時間	授業で取り上げた内容について配付するワークシートを復習し〈チャレンジ 100〉をやっておくこと。(30 分以上)									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	80	認知症の原因と症状の理解、機能及び心理的变化の理解							
	実践	0								
	レポート	20	視聴覚教材を通して							
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	医学的側面からみた認知症の基礎的知識を学習していきます。 授業の内容に合わせて準備をして下さい。 レポートについては、添削を行い返却します。									
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解」 中央法規									
参考書	佐藤雅彦著「認知症になった私が伝えたいこと」大月書店 砂川啓介著「娘になった妻 のぶ代へ -大山のぶ代『認知症』介護日記-」双葉社 樋口直美著「私の脳で起こったこと レビー小体型認知症からの復活」ブックマン社 丹野智文著「丹野智文 笑顔で生きる」文藝春秋									

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無					
科目名	認知症の理解Ⅱ C33044	2 年前期	講義	2						
担当教員	稲垣 みさ									
授業の概要	認知症の方との関わる際、介護福祉士として具体的にどのような関わりをしたらよいのか、どんな支援が求められているのか認知症の人の立場にたち、考え学んでいきます。また、家族への支援、地域の役割を事例を交えながら学んでいきます。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症のある人の状況が理解できる。 ・ 認知症のある人の尊厳を守り、「その人らしい生活」を支えていく介護について理解ができる。 ・ 認知症のある人の家族への支援や地域におけるサポート体制が理解できる。 									
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5	学修成果 6				
	○		○							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの歴史を紐解き、これからの認知症ケアについて考える 2. 認知症ケアの理念と視点 認知症ケアにおける理念や倫理、権利について考える 3. 認知症の人の思い 認知症の人の思いを理解し、支援内容の基本について学ぶ 4. その人らしさを大切にした認知症ケアの理念 パーソンセンタードケアとは何かについて考える 5. 認知症の人へのさまざまなアプローチ方法 よい関係を築くためのアプローチの方法を理解する 6. 認知症の人の理解と特性をふまえたアセスメントツール センター方式、ひもときシートなどを理解する 7. 認知症ケアの実際① 認知症の人とのコミュニケーションの方法について考える 8. 認知症ケアの実際② 食事のケアについて考える 9. 認知症ケアの実際③ 排泄や入浴、清潔保持のケアについて考える 10. 認知症ケアの実際④ BPSD につながる原因から、安心できる場について考える 11. 認知症の人と環境について 認知症の人と環境の関係について具体例をあげて考える 12. 認知症の人の終末期医療と介護 終末期における認知症の人の特徴を理解し関わり方を考える 13. 認知症の人に対する介護 実習での事例を通し認知症ケアについて考える 14. 介護者支援 認知症の人を支える家族や介護福祉士について考える 15. 認知症の人の地域生活支援 認知症施策や認知症ケアに携わる多職種について理解する 									
事前・事後学習について	<ul style="list-style-type: none"> ・ “認知症” について基本的・医学的な知識の理解が基礎となります。1 年で学んだ「認知症の理解Ⅰ」のノートやテキストを見直しておいてください。また、認知症に関しての図書が豊富に発行されています。是非、読んでみて、本人や家族の思いを知るなど知識を深めていただきたいと思います。 ・ 実習を通して、認知症の方との関わりから、事例として学んでゆきたいと考えています。自分が困った事例など、提供してもらい一緒に考えてゆきましょう。 									
準備学習に必要な時間	授業で配布したワークシート、返却したチャレンジをみて復習しておくこと。(30 分以上)									
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点							
	試験	100	認知症の歴史、認知症の基本的な知識、関わり方の理解							
	実践	0								
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	授業の内容によっては実習での事例を取り上げ学習していきます。授業に合わせて準備をして下さい。									
使用テキスト	「新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術」中央法規 「新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解」中央法規									
参考書	特に指定しない									

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	障害の理解 I C32045	1 年後期	講義	2	
担当教員	太和田 雅美				
授業の概要	障害の概念や障害者福祉の基本理念を学び、発達障害・知的障害・重複障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を学びます。また、言語障害のある人の生活について当事者の方から話を伺い、本人及び家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を考えます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「障害」とは何か、考え、障害者福祉の基本理念が理解できる。 ・発達障害のある人について基礎的理解ができ、自立に向けた生活支援の視点を考えることができる。 ・知的障害のある人について基礎的理解ができ、自立に向けた生活支援の視点を考えることができる。 ・言語障害のある人について基礎的理解ができ、自立に向けた生活支援の視点を考えることができる。 ・重複障害のある人について基礎的理解ができ、自立に向けた生活支援の視点を考えることができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念 障害者基本法の定義について学ぶ。 2. 障害者の法的定義 障害者の法的な定義について学ぶ。 3. 障害者福祉の基本理念① ノーマライゼーションとリハビリテーションを学ぶ。 4. 障害福祉の基本理念② インクルージョンと障害者権利条約を学ぶ。 5. 障害者福祉に関連する制度 障害者総合支援法のしくみを学ぶ。 6. 障害のある人の心理 言語障害と身体障害のある人から話を聞き、その心理について考える。 7. 知的障害の基礎的理解 知的障害のある人の障害の特性を学ぶ。 8. 知的障害の特性に応じた介護 知的障害の特性と生活上の困りごとを理解する。 9. 発達障害の基礎的理解 発達障害のある人の障害の特性を学ぶ。 10. 発達障害の特性に応じた介護 発達障害の特性と生活上の困りごとを学ぶ。 11. 重複障害の基礎的理解 重複障害の特性を学ぶ。 12. 13. 重複障害のある人の生活 「どんぐりの家」を鑑賞して、重複障害のある人及びその家族の心理を知り支援の方法を学ぶ。 14. 重症心身障害の基礎的理解 重症心身障害の特性を学ぶ。 15. 重症心身障害のある人の理解 重症心身障害の基礎的理解と生活上の困りごとを学ぶ。 				
事前・事後学習について	さまざまな原因で障害を持った方の生活を理解し、生活支援を学ぶ授業です。「人間の理解」「社会と制度の理解」等の関連科目と結び付けて考え、日頃から社会に目を向けることが事前事後学習となります。その日の講義内容に応じたワークシート、チャレンジ 100 を配布しますので、授業後は事後学習として取り組んでください。				
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 100〉をやっておくこと(30分程度)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	85	障害の理解、障害者の法的定義、基本的理念、障害の特性と生活支援		
	実践	0			
	レポート	15	当事者の話を聞いてのレポート(10)「どんぐりの家」を見て(5)		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	障害者福祉について広く興味を持って、関連した報道があれば読んでおくこと。 国家試験に直結する部分もありますので、「チャレンジ」の解説までしっかり聞いてください。 レポートは、コメントをつけて返却します。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術」中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	障害の理解Ⅱ C33046	2年後期	講義	2	
担当教員	村山 真紀子				
授業の概要	障害の特性を理解し支援の方法を学びます。障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、生活の質を高める支援を学びます。障害のある人の生活を支えるためのサポート体制や多職種連携・協働の支援について学びます。また、障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族の障害の受容段階や介護力に応じた支援方法について学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の特性について医学的・心理的側面から理解できる。 ・ 地域における障害福祉サービスについて理解できる。 ・ 障害のある人を支える家族について知り、その支援方法を理解できる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○	○	○	○	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肢体不自由の基礎的理解 肢体不自由の原因と障害の特性、合併症について学ぶ。 2. 肢体不自由の特性に応じた支援 肢体不自由の生活上の困りごとを理解し介護方法を学ぶ。 3. 難病の基礎的理解 難病の定義、難病の種類、難病法について学ぶ。 4. 難病の特性に応じた支援① 主な難病（ALS・パーキンソン病）について理解する。 5. 難病の特性に応じた支援② 主な難病（悪性関節リウマチ・筋ジストロフィー）について理解する。 6. 高次脳機能障害の基礎的理解 高次脳機能障害とは何か、高次脳機能障害の原因と具体的な症状について学ぶ。 7. 高次脳機能障害の特性に応じた支援 高次脳機能障害の生活上の困りごとを理解し介護方法を学ぶ。 8. 精神障害の基礎的理解 精神障害・精神障害者の定義、主な精神障害（疾患）について原因と特性を学ぶ。 9. 精神障害の特性に応じた介護 精神障害の生活上の困りごとを理解し介護方法を学ぶ。 10. 地域のサポート体制 地域で暮らすために必要な障害福祉サービスの提供のしくみを学ぶ。 11. 障害福祉サービスの提供のしくみ 障害者総合支援法のしくみとサービスの利用の仕方について学ぶ。 12. 障害者福祉制度と介護保険制度 ケアマネジメントの流れと相談支援事業等との連携について学ぶ。 13. チームアプローチ 協議会と多職種連携を学ぶ。 14. 家族への支援 障害の受容の段階と家族支援を学ぶ。 15. 家族の介護力の評価と介護負担の軽減 家族と障害者、環境との関係に着目した支援を学ぶ。 				
事前・事後学習について	その日の授業計画に沿ったワークシートを授業毎に配布します。授業終了時、「チャレンジ 200」を配布します。それを事後学習として行ってもらいます。次の授業開始時、「チャレンジ 200」の内容を確認していきます。				
準備学習に必要な時間	指定した当該ページには目を通す(30分程度) 授業で配布するワークシートを確実に復習し、〈チャレンジ 200〉をやり提出すること(30分程度)				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	90	障害の医学的側面の基礎知識、生活を支援する上での留意点、家族支援の在り方、チームケアのアプローチ		
	実践	0			
	レポート	10	難病のある人の生活についての DVD を見て、介護福祉士としてどう生活を支えるのか		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	毎回のチャレンジは知識の積み重ねになります。理解できるようにきちんとやっておきましょう。国家試験に直結する部分もありますので、「チャレンジ」の解説までしっかり聞いて理解してください。レポートは、コメントをつけて返却します。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」 中央法規 「最新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解」中央法規				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	医療的ケア C33047	2年	講義・演習	5	
担当教員	小川 晃美・村山 真紀子・宮島 彩				
授業の概要	医療的ケアが必要な人の安全かつ安楽な生活を支援するという観点から医療職との連携のもと、関連する制度の概要や個人の尊厳と自立、倫理上の留意点、感染予防、安全管理体制等の基礎的な知識を学びます。また喀痰吸引の基礎的知識・実施手順、経管栄養の基礎的知識、実施手順を習得していきます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアの実施に関して安全性及び感染防止の観点、基礎的知識を理解することができる。 ・喀痰吸引の基礎的知識、根拠に基づいた手技・手順を理解することができる。 ・経管栄養の基礎的知識、根拠に基づいた手技・手順を理解することができる。 ・演習にて、口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引・胃ろう経管栄養・経鼻経管栄養の技術を習得することができる。 				
学位授与方針との関連性	学修成果1	学修成果2	学修成果3	学修成果4	学修成果5
	○	○	○	○	
授業計画	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と社会（個人の尊厳と自立、医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解） 2. 保健医療制度（保健医療に関する制度、医行為に関する法律） 3. チーム医療と介護職員との連携、医療的ケアの安全な実施の重要性 4. 医療的ケアを安全に行うために、ヒヤリハット報告書とアクシデント 5-6. 救急蘇生法、清潔保持と感染予防（感染予防、職員の感染予防） 7. 療養環境の清潔、消毒法 8. 健康状態の把握（身体の把握、健康状態を知る項目） 9-10. 健康状態の把握（急変状態について）「たんの吸引」概論（呼吸のしくみ、いつもと違う呼吸状態） 11-12. 「たんの吸引」概論（たんの吸引とは、人工呼吸器と吸引） 13. 「たんの吸引」概論（呼吸器系の感染と予防、子どもの吸引） 14. 「たんの吸引」概論（吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応） 15-16. 「たんの吸引」概論（たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策） <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 17-18. 「たんの吸引」実施手順解説（たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持吸引の技術と留意点①） 19. 「たんの吸引」実施手順解説（吸引の技術と留意点②） 20. 「たんの吸引」実施手順解説（吸引の技術と留意点③） 21. 「たんの吸引」実施手順解説（報告及び記録、たんの吸引に伴うケア） 22. 「経管栄養」概論（消化器系のしくみとはたらき） 23. 「経管栄養」概論（消化・吸収とよくある消化器の症状、経管栄養とは） 24. 「経管栄養」概論（注入する内容に関する知識） 25. 「経管栄養」概論（経管栄養実施上の留意点、子どもの経管栄養について） 26. 「経管栄養」概論（経管栄養に関する感染と予防） 27. 「経管栄養」概論（利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 経管栄養により生ずる危険、注入後の安全確認） 28. 「経管栄養」概論（急変・事故発生時の対応と事前対策、経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持） 29. 「経管栄養」実施手順解説（経管栄養の技術と留意点①） 30. 「経管栄養」実施手順解説（経管栄養の技術と留意点②） 31-32. 「経管栄養」実施手順解説（経管栄養の技術と留意点③） 33. 「経管栄養」実施手順解説（経管栄養に必要なケア、報告及び記録） <p><演習></p> <ol style="list-style-type: none"> 4 コマ/日、5日間（口腔内・鼻腔内吸引（通常）、気管カニューレ内吸引（通常）胃ろう経管栄養、経鼻経管栄養法） 				
事前・事後学習について	呼吸器・消化器のしくみや働きの理解が求められます。「こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ」における、からだのしくみや働きを復習しておいてください。この科目は、「長野県喀痰吸引等研修」に準じて演習等を行っていき「基本研修」を修了します。そして就職後、実地研修を行い「認定特定行為業務従事者」を取得していきます。				
準備学習に必要な時間	テキストを一読しておくこと（30分）各項目における「振り返り」「まとめ」を再確認すること。				
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点		
	試験	60	理解度（医療的ケアの基礎、喀痰吸引・経管栄養の基礎的知識・実施手順解説）90%以上		
	実践	40	演習：口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引・胃ろう経管栄養・経鼻経管栄養を各5回実施、最終回にすべて修得している者が合格とする		
	レポート	0			
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	講義の最後で「まとめ」「振り返り」「復習」を行います。国家試験の内容に沿ったものありますのでしっかりと押さえておいてください。				
使用テキスト	「最新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア」中央法規				
参考書	「介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト」一般社団法人全国訪問看護事業協会 編集 「わかる たん吸引と経管栄養 DVD」医学評論社				

対象学生	介護福祉専攻 1	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無
科目名	ゼミナール I (介護福祉専攻) C41048	1 年通年	演習	1	
担当教員	小川 晃美・稲垣 みき				
授業の概要	学生として、学ぶための基礎的知識・技術を身に着けます。 介護の現場にいる多様な利用者さんを「幸せ」にするために様々な経験を積んでいきます。 介護福祉士にとって大切な「5つの力」の中の基礎力・生活力・コミュ力を養います				
到達目標	「わたしがめざす”5つの力”」を理解し、卒業時にめざす姿を思い描くことができる。 学生としての基本的な知識や技術を身に着けることができる。 学びについて主体的に考え、目標を持つことができる。				
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5
	○		○	○	○
授業計画	【ポケットいっぱいプロジェクト】 <ul style="list-style-type: none"> ・”5つの力”と卒業時到達目標の理解をする ・自立した大人になるために①スケジュール管理 ・自立した大人になるために②文章の書き方 ・パソコン教室への使い方 情報処理になれるための方法を学ぶ。 ・調べ学習について 文献や資料の集め方と注意点（引用や出典等）を知る。 ・車いすで畑を使用 ・かまどでご飯を炊いてみよう ・防災訓練；災害時における介護福祉士の役割を認識してみよう。 ・ひと夏の挑戦計画（レッツ・チャレンジについて） 				
事前・事後学習について	事前学習：各回で実施した内容を把握しておく 事後学習：学習した内容について各自復習する				
準備学習に必要な時間	授業で行うことを事前に調べてみる。				
評価方法	評価項目	配分 (%)	評価の観点		
	試験	0			
	実践	90	授業の取り組み、姿勢など		
	レポート	10	レポートの提出・内容		
	その他	0			
受講上の注意・課題のフィードバック	「5つの力」のファイルに挟み、随時確認する。				
使用テキスト	適宜指示します				
参考書					

対象学生	介護福祉専攻 2	開講学期	授業形態	単位数	教員免許資格の有無					
科目名	ゼミナールⅡ (介護福祉専攻) C43049	2年通年	演習	1						
担当教員	太和田 雅美・田部 一順									
授業の概要	国家試験受験へ向けての心構えや準備を行います。介護の専門知識を確実に身につけるために、模擬試験に挑戦しながら、自分の不得意分野を克服していきましょう。									
到達目標	介護福祉士国家資格取得することができる。									
学位授与方針との 関連性	学修成果 1	学修成果 2	学修成果 3	学修成果 4	学修成果 5					
	○	○	○	○	○					
授業計画	介護福祉士国家試験へ向けての対策講座を行う。 全8回の模擬試験を行う。 模擬試験後、問題を解き基礎的な力をつける。									
事前・事後学習について	事前学習：各回の実施内容を把握しておく。 事後学習：学習した内容について、各自で復習する。									
準備学習に必要な時間	対策講座、模擬試験で配布するプリントを事後学習として解いてください（毎回1時間程度）。									
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点							
	試験	0								
	実践	100	国家試験へ向けたノートづくり (10) 模擬試験の得点 (90)							
	レポート	0								
	その他	0								
受講上の注意・課題のフィードバック	模擬試験結果を検討しアドバイスを行う。									
使用テキスト	国家試験対策講座資料									
参考書	適宜指示する。									